



福岡歯科大学
医科歯科総合病院
概要2021

Fukuoka Dental College General Hospital
for Medicine and Dentistry - Outline 2021



Fukuoka Dental College General Hospital for Medicine and Dentistry

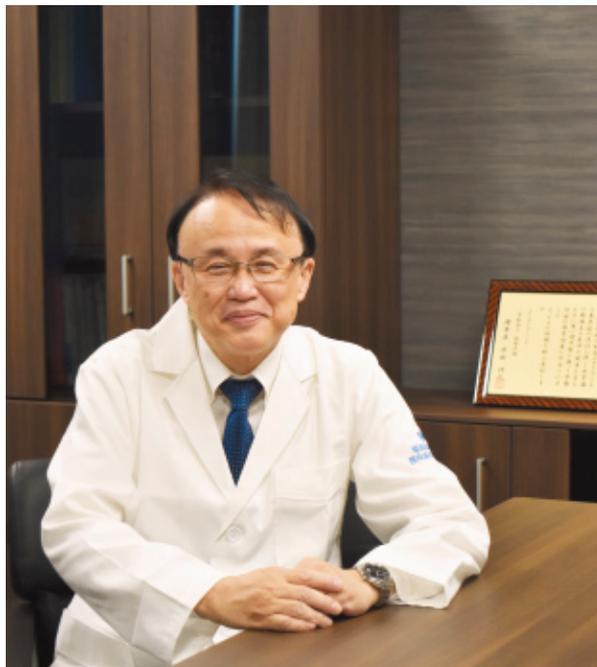
病院の理念 Mission

私たちは、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、安全で質の高い思いやりのある病院をめざします。

病院の基本方針 Basic Policies of the hospital

- 1 患者中心の医療**
患者さんの人格を尊重した優しさのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。
- 2 高度医療の提供**
医科歯科総合病院として多職種が協力し、高度な医療を推進します。
- 3 地域医療への貢献**
地域の基幹医療施設として、地域包括ケアシステムに応じた連携医療を充実させます。
- 4 全人的医療を実践できる医療人の育成**
高い倫理観を備え、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。





福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院長

阿南 壽

Director of College Hospital, ANAN Hisashi

福岡歯科大学医科歯科総合病院は、新病院を2020年9月29日に開院致しました。新病院は、「地域と社会をつなぐ」、「教育・研究・臨床をつなぐ」、「医科と歯科をつなぐ」、「未来へとつなぐ」をコンセプトとし、「つなぐ」という精神のもと、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院をめざしています。新型コロナウイルス感染症の爆発的な感染拡大のなか、病院に従事する多職種の教職員が一丸となり感染対策を徹底することにより、毎日の診療を行わせていただいております。これも地域の皆様ならびに連携病院の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝致しております。

本院はこれまで、1973年に「福岡歯科大学附属病院」として開設され、2005年からは「福岡歯科大学医科歯科総合病院」として生まれ変わり、さらに現在では、23の医科診療科と12の専門歯科を含む4つの歯科診療科からなる日本医療機能評価機構認定病院(2008年5月19日～)として、長年に渡って多くの地域の皆様にご利用いただいております。

この度、新病院の開院に合わせて、本院の特色ある施設として「健診センター」が設置され、充実した設備と「医科・歯科連携」で地域の皆様の健康をサポートさせていただいております。また、2021年4月に医科放射線診断科が開設されました。

一般的なエックス線撮影をはじめ、256列マルチスライスCTや3.0T(テスラ)MRI、超音波装置など、最新の医療機器を備えています。これらの機器を用いて医科・歯科を問わず、全身の画像検査を行います。検査後はすべての検査に対して認定医以上の資格を持った放射線科医が診断レポートを作成しています。さらに、近隣の病院様からご依頼を受けた種々の検査や画像診断を行っておりますので、ご利用いただければ幸甚に存じます。

新病院ではハード面に加えてソフト面も一新し、電子カルテシステムを医科・歯科一体型に変更するなど、さまざまな患者さんへのサービス向上に取り組んでおります。本院の主要実績として、2019年度は、①外来患者数:174,106人、1日平均681人(歯科474人、医科207人)、②病棟稼働率:60.0%、入院患者数:10,981人、1日平均30人、③新患者数:15,908人(1日平均62.2人)、歯科9,590人(1日平均37.5人)、医科6,318人(1日平均24.7人)でした。2020年度の実績と致しましては、①外来患者数:146,705人、1日平均567人(歯科382人、医科185人)、②病棟稼働率:54.8%、入院患者数:10,010人、1日平均27.4人、③新患者数:14,265人(1日平均56.7人)、歯科8,818人(1日平均35.0人)、医科5,447人(1日平均21.7人)となっています。また、2021年度の4～6月の実績と致しましては、①外来患者数:42,250人、1日平均657人(歯科442人、医科215人)、②病棟稼働率:73.2%、入院患者数1日平均36.6人、③新患者数:4,302人(1日平均66.9人)、歯科2,519人(1日平均39.2)、医科1,783人(1日平均27.7人)となっています。

さらに、本院は国、福岡県、福岡市が進める新型コロナウイルスワクチン接種事業のなかで、基本型接種施設の役割を担っております。各連携型医療施設様に県から送られてきましたワクチンを移送しております。また、本院でのワクチン接種といたしましては、県からご依頼の医療従事者の皆様への集団接種ならびに大学関係の職域接種、市からご依頼の高齢者の皆様や一般の方々への個別接種を実施しております。加えて、市からご依頼の西区集団接種会場への医師派遣、博多区中央ふ頭クルーズセンターへの歯科医師派遣、早良区ももち体育館への看護師の派遣等を行っております。

本院では、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の理念のもと、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、患者さんの人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の皆様の信頼に応えることのできる病院となるよう努めていきます。これからも医科歯科総合病院として多職種が協働し、安心・安全な医療を推進するとともに、地域の医療・介護・福祉施設の皆様と連携し、地域の皆様の健康維持に努めさせていただき、地域の皆様に信頼され、地域に貢献できる病院を目指す所存でございます。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

目次 Contents

1. 沿革概要	4
2. 組織図	6
3. 管理者および役職員	7
4. 職員数	8
5. 歯科医師臨床研修	8
6. 診療科別患者数	9
7. 診療科別症例数	10
8. 施設基準届出一覧	12
9. 診療部門・支援部門の紹介	13

■ 歯科診療部門 13

総合歯科・口臭クリニック	14
高齢者歯科	14
訪問歯科センター	15
保存科 歯内治療	15
歯周病科	16
補綴(入れ歯)科・口腔顔面美容医療センター	16
口腔インプラント科	17
口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター	17
矯正歯科	18
小児歯科	18
■ 小児口腔外傷センター	19
口腔医療センター	19
障害者歯科(スペシャルニーズ歯科)	20
口腔放射線診断科	20
歯科麻酔科	21
口腔病理診断科	21

■ 医科診療部門 22

内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科	23
心療内科	23
外科	24
形成外科・美容外科	24
耳鼻咽喉科	25
■ 摂食嚥下・言語センター	25
眼科	26
小児科・神経小児科	26
整形外科	27
リハビリテーション科	27
皮膚科	28
内視鏡センター	28
放射線診断科	29
麻酔科(ペインクリニック)	29
病理診断科	30

■ 診療支援部門 31

看護部	32
歯科衛生士部	33
薬剤部(薬局)	33
滅菌・器材部	34

■ 中央診療施設 35

臨床検査室	36
栄養管理室	36
予防接種センター	37
健診センター	37

■ 事務課 38

10. 医療機関の承認・指定状況	40
11. フロアマップ	41

1. 沿革概要

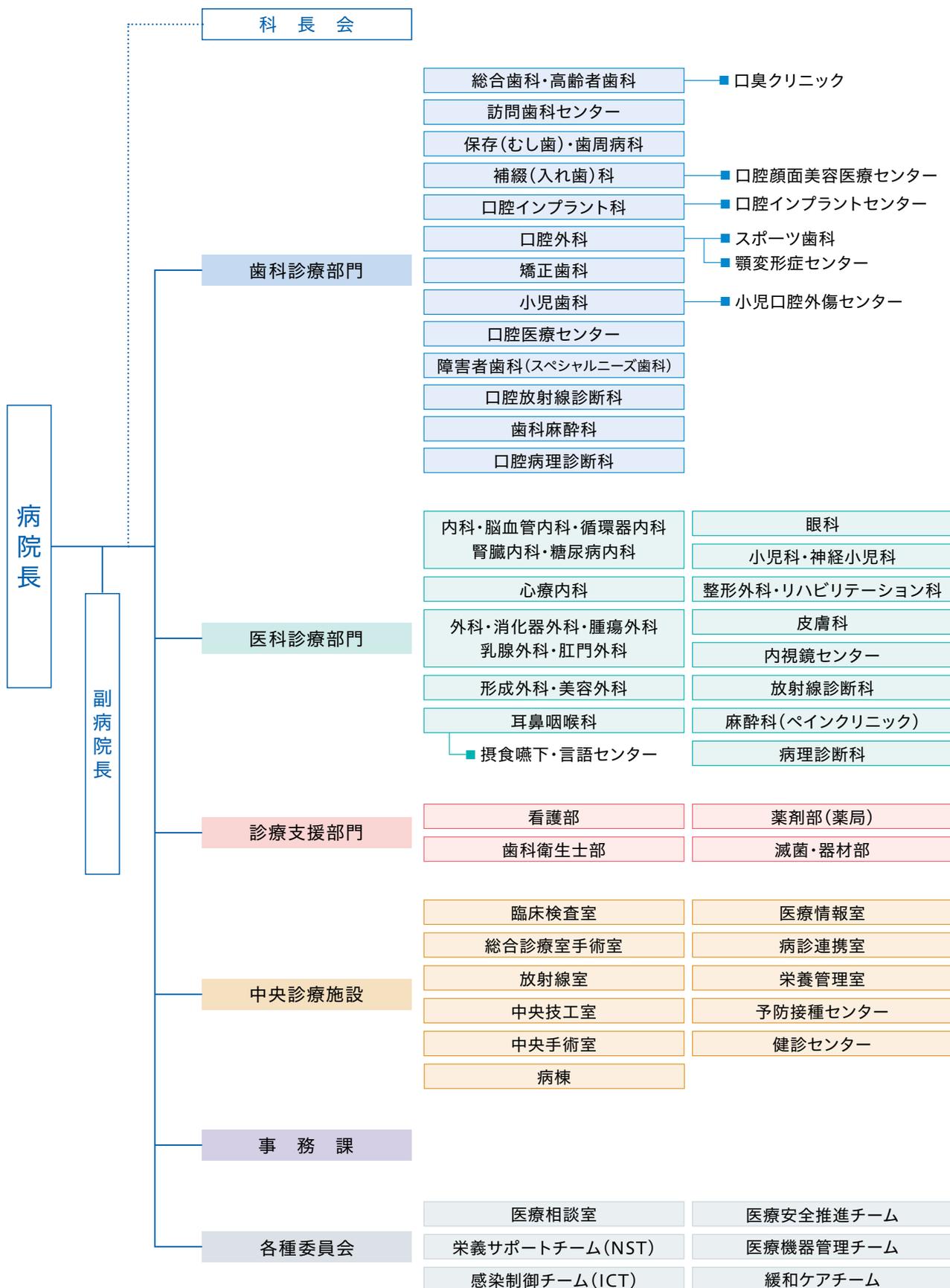
History

昭和47年	4月 1日	福岡歯科診療所開設 宮崎 三雄 教授 診療所長に就任
	7月27日	学校法人 福岡歯科学園 寄附行為認可、福岡歯科大学の設置認可
	10月 1日	松本 洋一 教授 初代附属病院長に就任
	10月23日	福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和48年	2月21日	福岡歯科大学附属病院 開設(病床30床)
	4月 1日	福岡歯科大学開学 附属病院歯科診療を開始
昭和49年	6月 1日	内科開設
昭和50年	4月 7日	歯科入院病棟開設
	7月 1日	外科開設
	8月 1日	基準寝具承認
	11月 1日	基準給食承認
昭和51年	8月24日	病床19床増設
	9月16日	内科、外科入院病棟開設
昭和52年	8月 1日	基準看護特1類承認
	10月 1日	第1期生臨床実習開始
昭和53年	4月 1日	麻酔科開設
昭和54年	2月 5日	古本 克磨 教授 附属病院長に就任
	8月 1日	病床1床増設(合計50床)
昭和60年	4月 1日	松浦 智二 教授 附属病院長に就任
昭和62年	6月 1日	卒業直後臨床研修開始
平成元年	4月 1日	吉田 穰 教授 附属病院長に就任
	10月 1日	予防歯科開設
	11月 1日	矯正歯科小児歯科診療科目の届出
平成 2年	4月 1日	松尾 繁 教授 附属病院長に就任
	6月22日	病棟避難スロープ及び霊安室設置
平成 3年	4月30日	高齢・障害者歯科開設
平成 5年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成 6年	4月 1日	富岡 徳也 教授 附属病院長に就任
平成 7年	3月20日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の設置
平成 8年	3月25日	顎機能検査室の設置
	5月28日	高速ヘリカルコンピューター断層システム (CT) の設置
	9月24日	口腔インプラント科開設
	11月 1日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成 9年	5月27日	循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成10年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成11年	10月 1日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設
平成12年	3月29日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行
	4月 1日	羽生 哲也 教授 附属病院長に就任
	11月30日	病棟増改築工事完成
平成13年	4月 1日	総合歯科開設
平成14年	4月 1日	本田 武司 教授 附属病院長に就任
平成15年	2月 1日	本川 渉 教授 附属病院長に就任

平成16年	2月20日	病院3階総合診療室手術室改修工事
	3月22日	病院玄関(エントランス)周り改修工事
	3月30日	病院3階シミュレーション実習室改修工事
平成17年	1月25日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
	2月 1日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の更新
	4月 1日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
	7月14日	特定共同指導を受審
平成18年	2月12日	カルテ検索システム導入
	9月29日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成19年	3月23日	全身用コンピューター断層撮影装置(ボリュウムCTスキャンシステム)の更新 歯科用CT 3DXの設置
	4月 1日	石川 博之 教授 病院長に就任、 耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
	7月 1日	病院情報システム(HIS)稼動(オーダリングシステム開始)
平成20年	5月19日	(財)日本医療機能評価機構認定証授与
平成21年	4月 1日	本川 渉 教授 病院長に就任
平成22年	4月 1日	松浦 正朗 教授 病院長に就任、 眼科開設、放射線診断科、脳血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、 消化器外科、腫瘍外科、乳腺外科、肛門外科、美容外科診療科目の届出
平成23年	4月 1日	小島 寛 教授 病院長に就任
平成24年	5月22日	病理診断科目の届出
平成25年	4月 1日	小児科、整形外科開設
	6月 7日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
平成26年	4月 1日	阿南 壽 教授、大星 博明 教授 副病院長に就任
	11月 3日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成27年	4月 1日	池邊 哲郎 教授 病院長に就任
	10月 1日	皮膚科開設
平成28年	4月 1日	高橋 裕 教授、篠原 徹雄 教授 副病院長に就任
	5月27日	リハビリテーション科診療科目の届出
平成29年	4月 1日	樋口 勝規 教授 副病院長に就任
	10月 1日	訪問歯科センター 開設
	11月 1日	内視鏡センター開設
平成30年	4月 1日	阿南 壽 教授、川野 庸一 教授 副病院長に就任
	5月11日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
	10月 1日	小児口腔外傷センター開設
平成31年	4月 1日	阿南 壽 教授 病院長に就任
令和元年	10月 7日	摂食嚥下・言語センター開設
令和 2年	4月 1日	顎変形症センター開設 中畑 高子 教授 副病院長に就任
	9月26日	新病院建築工事完成
	9月29日	新病院開院 健診センター開設
	4月 1日	これまでの放射線診断科を口腔放射線診断科に改称し、医科診療科に対応する 放射線診断科を設置

2. 組織図

Organization Chart



3. 管理者および役職員

Faculty and Administrative Officials

病院長 | 阿南 壽

副病院長 | 川野 庸一 都築 尊 樋口 勝規 中畑 高子

診療科長

診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科	米田 雅裕
訪問歯科センター	森田 浩光
保存(むし歯)・歯周病科	坂上 竜資
補綴(入れ歯)科	松浦 尚志
口腔インプラント科	城戸 寛史
口腔外科	池邊 哲郎
矯正歯科	玉置 幸雄
小児歯科・ 小児口腔外傷センター	尾崎 正雄
障害者歯科	小島 寛
口腔放射線診断科／ 放射線診断科	香川 豊宏／ 川波 哲
歯科麻酔科・ 麻酔科(ペインクリニック)	谷口 省吾
内科・脳血管内科・循環器内科・ 腎臓内科・糖尿病内科	大星 博明
心療内科	金光 芳郎
外科・消化器外科・腫瘍外科・ 乳腺外科・肛門外科	池田 哲夫
内視鏡センター	池田 哲夫
形成外科・美容外科	萩家 康弘
耳鼻咽喉科	山野 貴史
眼科	川野 庸一
小児科・神経小児科	鳥巢 浩幸
整形外科・ リハビリテーション科	井上 敏生
皮膚科	古村 南夫
口腔病理診断科・病理診断科	橋本 修一

施設長

施設名	施設長
臨床検査室	大星 博明
総合診療室手術室	城戸 寛史
放射線室	香川 豊宏
中央技工室	城戸 寛史
中央手術室	谷口 省吾
病棟	山野 貴史
医療情報室	鳥巢 浩幸
病診連携室	池田 哲夫
栄養管理室	中畑 高子
予防接種センター	岡田 賢司
摂食嚥下・言語センター	山野 貴史
顎変形症センター	池邊 哲郎
健診センター	樗木 晶子

部・課長

部局・課名	部・課長
看護部	松尾 佳代
歯科衛生士部	手嶋 直美
薬剤部(薬局)	外尾 典子
滅菌・器材部	中畑 高子
病院事務課	横大路智視

4. 職員数

Number of Enrolled Staffs

歯科医師

(令和3年5月1日)

教授	准教授	講師	助教	医員	研修歯科医
19	11	22	35	57	49

医 師

(令和3年5月1日)

教授	准教授	講師	助教
16	2	4	15

医療職等

(令和3年5月1日)

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科衛生士	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
3	4	6	31	5	1	2

理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護師	ソーシャルワーカー	事務職員
3	1	2	54	2	18

5. 歯科医師臨床研修

Clinical Training for Dentists

プログラム数・募集定員

(令和3年5月1日)

プログラム数	募集定員	
	プログラムI	プログラムII
2	95	20

採用数

(令和3年5月1日)

平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
32	43	50	49

協力型臨床研修施設数

(令和3年5月1日)

平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
90	89	88	86

6. 診療科別患者数

Faculty and Administrative Officials

(令和2年度)

診療科名	外来		入院	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	12,435	48.1	-	-
口臭クリニック	74	0.3	-	-
高齢者歯科	6,806	26.3	-	-
訪問歯科センター	3,622	14.0	-	-
保存(むし歯)・歯周病科	16,588	64.2	-	-
補綴(入れ歯)科	11,314	43.8	-	-
口腔インプラント科	6,243	24.2	0	0.0
口腔外科	15,725	60.9	3,451	12.5
スポーツ歯科	0	0.0	0	0.0
口腔顔面美容医療センター	161	0.6	0	0.0
矯正歯科	11,455	44.3	-	-
小児歯科	10,049	38.9	78	0.3
障害者歯科	3,782	14.6	14	0.1
歯科麻酔科	537	2.1	-	-
歯科計	98,791	382.3	3,543	12.9
内科	13,624	52.7	792	2.9
小児科	5,057	19.6	-	-
心療内科	2,395	9.3	57	0.2
外科	2,916	11.3	2,912	10.6
内視鏡センター	623	2.4	438	1.2
整形外科	5,056	19.6	783	2.8
皮膚科	4,595	17.8	47	0.2
形成外科	1,517	5.9	11	0.0
耳鼻咽喉科	5,193	20.1	824	3.0
眼科	6,093	23.6	1,041	3.8
麻酔科	1,340	5.2	-	-
放射線診断科	18,403	71.2	-	-
医科計	66,812	258.7	6,905	24.7
合計	165,603	641.0	10,448	37.6
健診センター	599	2.3	0	0

a. 年度別患者数

外来			入院		
平成30年度	平成31年度	令和2年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
189,379	194,243	165,603	11,916	10,981	10,448

b. 年度別1日平均患者数

外来			入院		
平成30年度	平成31年度	令和2年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
706.0	757.0	641.0	32.7	30.1	37.6

7. 診療科別症例数

Number of cases at Each Clinical Division

年間手術症例数

(令和2年)

診療科	臨床指標	実績
歯周病科	歯周外科手術件数	61
	歯科衛生士メンテナンス件数	636
	全身麻酔手術症例数	合計 232
口腔外科	口腔癌	27
	口腔潜在的悪性疾患	6
	嚢胞	42
	抜歯	48
	顎変形症	46
	顎変形症関連手術	22
	顎骨骨折	14
	良性腫瘍	12
	唾液腺疾患	5
	顎骨再建・インプラント	1
	炎症	1
	その他	8
		初診患者数
	外来手術数	1,729
	静脈内鎮静手術	102
口腔医療センター	抜歯	2,112
	普通抜歯	742
	難抜歯	281
	埋伏歯抜歯	1,089
		(下顎難抜歯798例を含む)
	手術症例数	合計 106
外科・ 内視鏡センター	食道腫瘍	16
	胃癌	6
	小腸癌 その他	1
	大腸・直腸癌	14
	イレウス	2
	虫垂炎	2
	肝腫瘍	1
	膵・胆道腫瘍	2
	胆道結石	14
	ヘルニア	15
	乳癌	13
	肛門	18
	その他	2
形成外科	外来手術件数	161
	レーザー治療	598
耳鼻咽喉科	喉頭直達鏡手術	5
	鼻副鼻腔内視鏡手術	8
	唾液腺手術	4例
	(内唾液腺内視鏡手術)	2例)
	口蓋扁桃摘出術	8例
	その他	23例

診療科	臨床指標	実績
眼科	白内障手術	278
	硝子体手術	11
	緑内障手術	8
	涙道内視鏡手術	8
整形外科	手術症例数	33
	外反母趾手術件数	3
	骨折手術数	10

年間症例数

(令和2年)

診療科	臨床指標	実績	
口腔インプラント科	埋入本数	290本	
	オッセオインテグレーション率	100%	
矯正歯科	外科的矯正治療の開始件数	37症例 (検査数 45)	
	合計	17,511	
放射線診断科/ 口腔放射線診断科	一般撮影	口内法	2,549
		口外法	9,697
	CT	単 純	2,024
		造 影	593
	MRI	単 純	394
		造 影	207
	CBCT		1,180
US		867	
内科	糖尿病教育入院	12	
	頸部血管エコー件数	24	
	心エコー件数	159	
心療内科	外来症例数	262	
外科・ 内視鏡センター	内視鏡症例数	合計	837
		上部	484
	胆道	小腸	4
		超音波内視鏡	8
		ダブルバルーン	4
	下部	胆道鏡	1
		Polypectomy	302
摂食嚥下・言語センター	年間嚥下リハビリテーション件数	84	
小児科・神経小児科	年間嚥下リハビリテーション件数	643	
	神経発達外来新患件数	136	
	脳波検査件数	39	
麻酔科・ペインクリニック	WISC-IV件数	46	
	麻酔科外来患者件数	1,791	
	全身麻酔件数	485	
口腔病理診断科・ 病理診断科	静脈内鎮静件数	217	
	院内病理診断数(組織診)	817	
	院内病理診断数(細胞診)	323	
	術中迅速診断件数	23	

8. 施設基準届出一覧

(九州厚生局令和3年10月1日現在)

Legal Authorization of Medical Services

No.	受理届出名称	受理記号	受理番号	算定開始年月日
A. 基本診療料				
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	病初診	第25号	平成31年 3月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算2	外来環2	第39号	平成30年10月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	歯特連	第20号	平成24年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料	一般入院	第5号	令和 3年 8月 1日
5	診療録管理体制加算2	診療録2	第215号	平成22年 4月 1日
6	療養環境加算	療	第296号	令和 2年11月 1日
7	重症者等療養環境特別加算	重	第360号	令和 3年 8月 1日
8	栄養サポートチーム加算	栄養チ	第148号	平成 3年 3月 1日
9	感染防止対策加算2	感染防止2	第104号	平成24年 4月 1日
10	病棟薬剤業務実施加算1	病棟薬1	第123号	平成29年10月 1日
11	データ提出加算	データ提	第237号	平成30年 6月 1日
12	入退院支援加算	入退支	第240号	令和 元年 7月 1日
13	認知症ケア加算	認知ケア	第243号	令和 2年 4月 1日
14	せん妄ハイリスク患者ケア加算	せん妄ケア	第121号	令和 3年 8月 1日
15	地域歯科診療支援病院入院加算	地歯入院	第6号	平成24年 4月 1日
B. 特掲診療料				
16	入院時食事療養/生活療養(I)	食	第468号	平成 3年 3月 1日
17	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	医管	第529号	平成18年 4月 1日
18	がん性疼痛緩和指導管理料	がん疼	第226号	平成24年 4月 1日
19	小児運動器疾患指導管理料	小運指管	第57号	令和 2年 4月 1日
20	ニコチン依存症管理料	ニコ	第957号	平成29年 7月 1日
21	がん治療連携指導料	がん指	第412号	平成23年10月 1日
22	薬剤管理指導料	薬	第412号	平成19年 4月 1日
23	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	在宅歯管	第90号	平成26年 8月 1日
24	遺伝学的検査	遺伝検	第14号	平成29年 4月 1日
25	有床義歯咀嚼機能検査1のイ	咀嚼機能1	第16号	平成28年 8月 1日
26	有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	咀嚼能力	第16号	平成28年 8月 1日
27	有床義歯咀嚼機能検査2のイ	咀嚼機能2	第6号	平成30年 8月 1日
28	有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	咬合圧	第20号	平成30年 8月 1日
29	精密触覚機能検査	精密触覚	第4号	平成30年 8月 1日
30	睡眠時歯科筋電図検査(一連につき)	歯筋電図	第19号	令和 3年 9月 1日
31	検体検査管理加算(I)	検I	第308号	平成20年 4月 1日
32	神経学的検査	神経	第175号	平成25年 4月 1日
33	画像診断管理加算1	画1	第126号	令和 3年 8月 1日
34	歯科画像診断管理加算1	歯画1	第4号	平成18年 4月 1日
35	歯科画像診断管理加算2	歯画2	第1号	平成24年 4月 1日
36	遠隔画像診断	遠画	第7号	平成23年12月 1日
37	CT撮影及びMRI撮影	C-M	第652号	令和 2年10月 1日
38	無菌製剤処理料	菌	第132号	平成20年 4月 1日
39	脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	脳II	第126194号	令和 2年 3月 1日
40	運動器リハビリテーション料(I)	運I	第560号	令和 2年 3月 1日
41	呼吸器リハビリテーション料(II)	呼II	第121号	平成26年 8月 1日
42	がん患者リハビリテーション料	がんリハ	第157号	平成30年11月 1日
43	歯科口腔リハビリテーション料2	歯リハ2	第135号	平成26年 4月 1日
44	口腔粘膜処置	口腔粘膜	第438号	平成30年 4月 1日
45	レーザー機器加算	手光機	第429号	平成30年 4月 1日
46	手術用顕微鏡加算	手顕微加	第35号	平成28年 4月 1日
47	う蝕歯無痛窩洞形成加算	う蝕無痛	第56号	平成22年 4月 1日
48	CAD/CAM冠	歯CAD	第732号	平成26年 4月 1日
49	手術時歯根面レーザー応用加算	手術歯根	第23号	平成22年 4月 1日
50	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	歯技工	第337号	平成22年 4月 1日
51	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	緑内ド	第44号	令和 元年 9月 1日
52	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	硝切	第16号	平成24年 4月 1日
53	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	ペ	第147号	平成13年 6月 1日
54	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	胃瘻造	第57号	平成26年 4月 1日
55	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	胃瘻造嚥	第81号	平成26年 6月 1日
56	歯周組織再生誘導手術	GTR	第153号	平成20年 4月 1日
57	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	人工歯根	第8号	平成24年 4月 1日
58	歯根端切除手術の注3	根切顕微	第98号	平成29年 4月 1日
59	麻酔管理料(I)	麻管I	第85号	令和 3年 7月 1日
60	歯科麻酔管理料	歯麻管	第10号	令和 2年 5月 1日
61	口腔病理診断管理加算1	口病診1	第1号	平成26年 6月 1日
62	クラウン・ブリッジ維持管理料	補管	第747号	平成 8年 4月 1日
63	歯科矯正診断料	矯診	第95号	平成22年 4月 1日
64	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	顎診	第1号	平成19年 6月 1日
65	酸素の購入単価	酸素	第143494号	令和 3年 4月 1日

9. 診療部門・支援部門の紹介

Information for Clinical Division and Medical support Division

| 診療部門 | Clinical Division |

歯科診療部門

Dental Clinics

歯科診療部門

医科診療部門

診療支援部門

中央診療施設

事務課

総合歯科・口臭クリニック

総合初診では初診患者さんの医療面接、診査等を行い、専門診療科の指導医と共に一次的な治療方針を決定します。総合歯科では一口腔単位の治療を行い、専門的な治療を要する症例は専門診療科へ治療を依頼します。口臭が気になる患者さんの検査や相談も行っています。



科長 米田 雅裕



口臭クリニック



感染対策に配慮した診療

■得意分野

総合歯科では初診業務と短期間で終了する一口腔単位の治療を行っています。歯科治療に不安がある場合は笑気鎮静下で治療を行うことも可能です。口臭クリニックでは最先端の機器を用いて口臭を測定し、診断を行います。

■診療体制

一般歯科初診の場合、予約なしで構いませんし、紹介状がなくても大丈夫です。口臭クリニックは専用の個室で診療を行いますので、事前の予約をお願いします。

■診療方針

総合的で、しかも患者さんに優しい治療を心がけています。歯科医師は全員、日本総合歯科学会の会員であり、指導医や認定医が若手歯科医師の指導を行っています。口臭担当医は日本口臭学会の指導医、専門医で、正確な診断および

丁寧な説明を行っています。歯科治療は不安なこともありますが、優しく声掛けを行いますので安心してご相談ください。

■対象疾患

一般歯科(むし歯、歯周病、かぶせ物、入れ歯等)、口臭、変色歯等

■主な治療

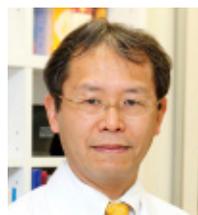
総合診療(一口腔単位の治療)、レーザー治療、笑気鎮静法、ホワイトニング等

■学会施設認定

- 日本総合歯科学会認定施設
- 日本口臭学会認定施設
- 日本口腔衛生学会認定施設

高齢者歯科

高齢者歯科では、心臓病や脳卒中などのために血液がサラサラになる薬を飲まれている方、車いすで移動されているために診察台に移乗するのが難しい方、認知症などのために容易に治療を受けることができない方への治療を行っています。



副科長 内藤 徹



車いすで来院された患者さんに容易に対応できる診察台を完備

■得意分野

病気をお持ちのご高齢の方のむし歯の治療、抜歯、入れ歯作製や予防処置を主に行っています。車いすの方を診察台に移乗しないまま歯科治療を行うための設備や、診療中にその場でレントゲン撮影ができるレントゲン防御機能を備えた治療室も備えています。また、食事の際にムセが起きやすい方の嚥下障害の診断とリハビリテーションの専門医や、さまざまな検査や治療をしても改善しない、原因を特定しにくい口の症状を専門に診るスタッフも治療を行っています。

■診療体制

日本老年歯科医学会専門医、日本歯科心身症学会専門医、日本歯周病学会専門医、日本歯科保存学会専門医などの専門性を持ったスタッフが、毎週カンファレンスを行って難しい症例に対応しています。

■診療方針

患者さんの心と身体との状態に配慮して、生活の質の維持につながるような治療を目指しています。

■対象疾患

むし歯の治療、抜歯、入れ歯作製など歯科一般の治療に加え、心と体のバランスについても特別に配慮をする治療を行っています。

■学会施設認定

- 日本老年歯科医学会
- 日本歯科心身医学会
- 日本歯科保存学会

訪問歯科センター

超高齢社会の現在、歯科訪問診療のニーズが高くなっています。当科は、病院・介護施設・居宅等のさまざまな場所への歯科訪問診療を行っています。なお、必要に応じて当院歯科専門診療科と連携し、さまざまな口腔疾患に対応しています。



センター長 森田 浩光



診療風景

■ 得意分野

身体的理由により歯科外来に通院できない方、歯科のない病院(主に提携先病院)や当院医科に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療(手術・抗がん剤治療・放射線療法)予定および治療中の方などに対して、診療器材を持参して歯科治療・口腔ケアを行います。

■ 診療体制

全身管理を得意とする歯科医師・歯科衛生士が中心となって診療します。

■ 診療方針

医科と連携し、全身管理のもとで安心・安全な歯科訪問診療を行うことを基本方針としています。

■ 対象疾患

各種口腔疾患(むし歯、歯周病、義歯作製・修理・調整、粘膜疾患など)、口腔機能低下症、摂食嚥下障害等の疾患に、適宜当院専門診療科と連携して対応しています。

■ 主な検査

むし歯や歯周病、義歯などの一般的な歯科検査、高齢者の口腔機能低下症の検査、摂食嚥下の検査

■ 主な治療

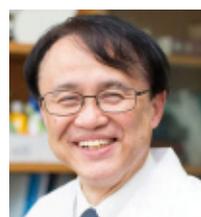
口腔ケアや応急処置をはじめ、むし歯、歯周病、義歯等の一般歯科治療を行います。また、飲み込みの悪い方、ムセのある方の摂食嚥下に関する治療・リハビリも行います。

■ 学会施設認定

- 日本有病者歯科医療学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本障害者歯科学会
- 日本総合歯科学会

保存科 歯内治療

「自分の歯を残す、生かす治療」をモットーとし、主として歯内治療(根管治療)、う蝕(むし歯)治療を行っています。また、他科および他院よりご紹介いただいた難治性根尖性歯周炎の患者さんを担当しています。



科長 阿南 壽



マイクロスコープを用いた精密根管治療と歯科用CBCT検査

■ 得意分野

う蝕に対する修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する歯内療法および歯根尖切除法などの外科的歯内療法を行っています。また、難治性根尖性歯周炎の検査・診断を適確に行い、マイクロスコープを使用した精密根管治療(マイクロエンド)を実施しています。歯性上顎洞炎に対しては、耳鼻咽喉科・口腔外科・放射線科との連携によるチーム医療を実践しています。

■ 診療体制

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会、日本外傷歯学会、日本歯周病学会で研鑽を積んでいる専門性の高いスタッフを中心に、歯内療法を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。

■ 診療方針

安心・安全で高度な歯科医療を提供します。個々の状況に応じた質の高い歯科医療を達成するために、最新の機器を

活用した検査を実施し、病状や治療等についての十分な説明に基づくインフォームドコンセントの取得を心がけています。

■ 対象疾患

う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯の破折、歯内-歯周疾患、歯の変色など

■ 主な検査

歯科用コーンビームCT検査(歯専用の三次元的なエックス線検査)、マイクロスコープ(歯科治療用の顕微鏡)による検査など

■ 学会認定医・専門医

- 日本歯科保存学会指導医・専門医1名、専門医2名、認定医4名
- 日本外傷歯学会認定医2名
- 日本歯周病学会専門医1名

歯周病科

なるべく歯を抜かずに歯を保存するような治療を心がけています。歯周病の治療、むし歯の治療、そして歯の神経や根の管の治療を中心に行っています。



科長 坂上 竜資



歯周組織再生療法の診療風景

■ 得意分野

基本的な歯周病の治療から最新の歯周組織再生療法、審美性を回復するための歯根面の被覆術、欠損部位への歯科インプラント手術、咬合性外傷の治療などを行っています。

■ 診療体制

日本歯周病学会専門医・認定医がおり、月曜から金曜まで診療にあたっています。

■ 診療方針

患者さんの全身状態に配慮しながら、なるべく歯を抜かずに治療を進めます。治療の流れとしては、第一段階として、原因となるプラークを取り除くためのブラッシング指導や歯石取り、かみ合わせの調整などの歯周基本治療を行います。次に第二段階として、炎症がひいてもなお歯肉に不良な形態が残っている場合には歯周外科手術を行います。さらに

第三段階として、かみ合わせを回復し、揺れている歯をしっかり固定するためにかぶせもの（冠）や入れ歯を作ります。最後に第四段階として、定期点検を行って、再発を防止するメンテナンスに進めてまいります。

■ 対象疾患

歯周病、咬合性外傷、歯肉退縮、歯髄炎、根尖性歯周炎、う蝕

■ 主な治療

歯周基本治療、歯周組織再生療法を含む歯周外科手術、メンテナンス、根面被覆術、歯周病患者を対象としたインプラント治療

■ 学会施設認定

- 日本歯周病学会
- 日本臨床歯周病学会
- 日本歯科保存学会

補綴（入れ歯）科・口腔顔面美容医療センター

補綴科では、歯冠がむし歯で崩壊したり、歯周炎で歯を失った後に、クラウン（かぶせもの）、ブリッジ、部分床義歯（部分入れ歯）、全部床義歯（総入れ歯）を装着して、かみ合わせを回復させ、咀嚼や発音や審美を改善する治療を行っています。口腔顔面美容医療センターでは、審美を重視し、ホワイトニングやセラミッククラウンによる自費治療を行っています。



科長 松浦 尚志



デジタル技術(CAD/CAM)によるブリッジ設計

■ 得意分野

従来の方法によるクラウン・ブリッジ治療、部分床義歯、全部床義歯、口腔がん治療後の顎義歯。最新のデジタル技術（CAD/CAM）を用いたクラウン・ブリッジ治療、審美治療。

■ 診療体制

日本補綴歯科学会指導医、専門医、認定医、日本口腔インプラント学会専門医、日本老年歯科医学会認定医が専門的な診療にあたっています。また、日本顎顔面補綴学会認定医が口腔がんの治療後の顎義歯治療を専門に行っています。

■ 診療方針

患者さんのために最も適した治療を十分な説明を行った上で適切に行うことを心がけています。最先端の治療からオーソドックスな治療まで提供いたします。

■ 対象疾患

歯の崩壊や喪失によって生じる咀嚼障害、審美障害、口腔がんの切除に伴う顎骨の欠損、顎関節症、歯ぎしり。

■ 主な治療

クラウン、ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、顎義歯による治療。顎関節症や歯ぎしりに対する治療。

■ 学会施設認定

- 日本補綴歯科学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本顎顔面補綴学会

口腔インプラント科

最新のデジタル機器を活用して「安心で安全なインプラント治療」を提供いたします。



科長 城戸 寛史



ナビゲーションシステムによる手術

■得意分野

正確なインプラント埋入手術を行うために最新のデジタル機器を導入しています。患者さんの顎の骨のCTデータを使用して、インプラントの埋入位置を決定し、計画通りの位置にインプラントを埋入できるように、CAD/CAM製作(コンピュータ設計で製作する方法)のドリルガイドを使用したり、ナビゲーションシステム(顎の骨の中のドリルの位置をモニターで見る装置)を使用したりします。また、上部構造(インプラントに取り付ける歯の部分)もCAD/CAMで製作するため精度が高く、ジルコニア等の生体親和性(人体の組織となじみやすく有害性がない)の高い材料を採用しています。

■診療体制

公益社団法人日本口腔インプラント学会、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会の専門医と指導医が診療にあた

ります。また、日本口腔インプラント学会の専門衛生士および技工士が治療をアシストします。

■診療方針

インプラント治療により、患者さんの失った歯を回復し、食べる機能、しゃべる機能および審美性の回復に努めます。また、口腔外科などの他の歯科診療科だけでなく、内科や耳鼻科などの医科と連携し、安全で安心なインプラント治療を供給します。

■学会施設認定

- 公益社団法人日本口腔インプラント学会
- 公益社団法人日本顎顔面インプラント学会

口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター

口腔・顎・顔面領域にはさまざまな疾患が発生します。そのような疾患を入院下または外来通院にて、外科手術で治療します。また、口内炎などの粘膜疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患などを、全身疾患と関連付けながら診断・治療します。親知らずなどの難抜歯や全身管理が必要な有病者の抜歯も行います。



科長 池邊 哲郎



副科長 平木 昭光



手術室における口腔癌手術

■得意分野

入院下に全身麻酔や鎮静法で外科手術をします。**【口腔がん】** 外科手術を中心に当院の摂食嚥下・言語センターや近隣の大学・総合病院と連携を行い、集学的治療を行います。また、制御率のみならず、摂食嚥下や咀嚼の改善など、術後のQOLを考慮した治療を行っています。**【顎変形症センター】**

下顎前突症などの顎変形症に対して当院矯正歯科や矯正歯科開業医および麻酔科と連携を行い、デジタル機器をもとに綿密な治療計画を策定し、精確な顎矯正手術を行っています。その他の疾患につきましても、多数の専門医や指導医が在籍し、それぞれの治療にあたります。

■診療体制

日本口腔外科学会認定医(7名)・専門医(5名)・指導医(4名)、日本口腔科学会認定医(3名)・指導医(2名)、日本顎関節学会

専門医・指導医(1名)、日本がん治療認定機構がん治療認定医(歯科口腔外科)(3名)を含む約25名で診療を行っています。

■診療方針

患者さんの健康を第一に考え、多職種連携・チーム医療を推進し、丁寧なインフォームド・コンセントを重視して、安全で安心な高度な医療の提供を常に心がけています。

■対象疾患

親知らず、口腔粘膜疾患、口腔がん、顎変形症、良性腫瘍・嚢胞・外傷・炎症、顎関節疾患、インプラント前治療、スポーツ歯科(マウスガードの作製)、ドライマウス

■主な検査

唾液量検査、味覚検査、精密触覚機能検査、生検など

■学会施設認定

- 日本口腔外科学会ほか多数

矯正歯科

学童期以降の幅広い年齢層を対象とした歯列矯正を専門に行っています。矯正治療への不安を少しでも減らすように、丁寧なカウンセリングと検査結果の詳細な検討を行い、治療効果の得られやすいスタンダードな装置を用いた治療を心掛けています。



科長 玉置 幸雄



矯正歯科外来の診察風景

■ 得意分野

通常では治療困難な歯列不正を中心とした矯正治療を行っています。小児期の反対咬合や上顎前突などの歯列不正にも積極的に対応しています。

■ 診療体制

矯正歯科外来を中心とした診療で担当医制です。

【初診】

月曜～金曜:9:00～16:30(最終受付)、土曜:9:00～11:00(最終受付)
予約制で紹介状なしでも初診受診可能(※転院を除く)ですが、検査や治療は平日の時間帯です。

■ 診療方針

◆丁寧なカウンセリング

初診カウンセリングは、日本矯正歯科学会の認定医・指導医資格のスタッフが時間をかけて行います。

◆多角的な検査と検討

検査では、歯並びや顎顔面骨格の形態分析、成長分析、必要に応じてマルチブラケット治療後の歯列予測などを行い多角的に診断し治療方針を検討します。検査後の全症例は、局内検討会で詳細に検討され科長で最終確認し、総合的な治療方針をリスクも含め十分説明します。

◆口腔のQOLの向上を目指した矯正治療

スタンダードで確実な治療効果が見込める装置を優先的に使用します。その他、口腔外科と連携した顎変形症治療、形成外科と連携した口唇口蓋裂治療を積極的に行っております。

■ 対象疾患

反対咬合(下顎前突)、上顎前突、叢生(ガタガタ、八重歯)、開咬・過蓋咬合、埋伏犬歯の開窓後牽引誘導、重度反対咬合や顔面非対称などの顎変形症、口唇口蓋裂に伴う歯列不正

■ 主な検査

頭部エックス線規格写真検査、埋伏犬歯・過剰歯の3次元歯科用コーンビームCT検査、顎運動検査、手部エックス線写真による成長分析、顎態模型と治療後歯列の予測模型の作製

■ 主な治療

成長期・成人の歯科矯正用アンカースクリューを用いたマルチブラケット治療、小児期の床装置などを用いた顎成長や歯の萌出誘導、上顎前方牽引装置など顎整形装置による骨格性成長誘導、外科的矯正治療(顎変形症)の術前・術後矯正治療、口唇口蓋裂治療など
※顎口腔機能診断施設、自立支援指定医療機関

■ 学会施設認定

● 日本矯正歯科学会認定基本研修機関・臨床研修機関

小児歯科

小児歯科では、歯科治療だけでなく、正常な永久歯萌出を障害するような剰歯、歯牙腫などの外科的治療も行っています。また、矯正歯科とも協力して乳歯列期や混合歯列期に発生した不正咬合の初期治療にも対応しています。不正咬合の患者さんに対しては、定期的に十分な症例分析を行った検討会を行っており医局員全員が専門性を高められるよう努力しています。小児歯科では、小児歯科専門医指導機関として、週に1回、口腔内写真とエックス線写真を使ったケースプレゼンテーションを実施し、医局員全員が情報の共有ができるようにしています。



科長 尾崎 正雄



小児歯科外来

■ 得意分野

小児一般歯科治療、咬合誘導、外科的症例

■ 診療体制

現在小児歯科は、大学院を含め18名が常勤で診療しています。

■ 診療方針

小児患者さんと保護者へのコミュニケーションを大切に、安心安全な歯科治療を提供すること。

■ 対象疾患

乳歯う蝕、歯肉炎、不正咬合など

■ 主な検査

エックス線検査

■ 主な治療

う蝕治療、う蝕予防、咬合誘導など

■ 学会施設認定

● 日本小児歯科学会認定指導施設
● 日本小児口腔外科学会認定指導施設

小児歯科・小児口腔外傷センター

小児歯科では口腔外傷を主訴とした患者さんが多く来院するようになりました。

歯の外傷は1～2歳の乳幼児と7～8歳の学童に多発する傾向があり、以前では交通事故や暴行、スポーツなどの原因で歯を破折または脱臼する患者が多く、あまり日常生活の中で発生するものではありませんでした。

しかし、近年、小児の運動機能の低下から、症例数の増加が見られ、1～2歳の小児ばかりで無く、幼児期全般と学童期にも多くみられるようになりました。

歯の発育途上にある小児の外傷では、乳歯や萌出直後の永久歯への対応が難しく、専門性が高いです。そこで、小児歯科外来に小児口腔外傷センターを併設することにしました。

当センターでは歯の損傷(歯の破折および脱臼)に対して治療を行っています。軟組織損傷(口腔粘膜の創傷、口唇の創傷、口腔周囲の皮膚の損傷)および顎骨骨折(歯槽骨、下顎骨、上顎骨、頬骨)などに関しては、口腔外科が治療を行っています。

小児の口腔外傷では初期対応が大事であるため、もしもの事故に対しては、是非、ご連絡ください。



センター長 尾崎 正雄



小児口腔外傷センターロゴ

■ 得意分野

小児の歯の外傷の処置

■ 診療方針

外傷を受けた歯でも極力保存するようにしています。

■ 対象疾患

概ね0～15歳までの小児の口腔外傷を対象としています。

■ 主な検査

エックス線撮影、電気歯髓診断など

■ 主な治療

歯の固定、歯内療法、縫合など

■ 学会施設認定

- 日本外傷歯学会認定指導施設

口腔医療センター

口腔医療センターは、「口腔医学」の理念に基づき口腔の健康を通して全身の健康を守る歯科医療を実践するための診療施設です。博多駅前という交通の利便性を生かし、各種講習会の開催を通して歯科医療従事者の生涯学習の拠点としての役割も担っています。



センター長 泉 利雄



インプラント埋入手術

■ 得意分野

口腔外科、口腔インプラント、歯周病、審美的歯冠修復、欠損部補綴、歯内治療、口臭検査、ホワイトニング、睡眠時無呼吸症候群に対するマウスピース作製

■ 診療体制

スタッフは歯科医師10名(教授3名、准教授1名、講師5名、助教1名)、歯科衛生士10名、歯科技工士1名:日本歯周病学会 歯周病専門医・指導医、日本歯科保存学会 保存治療専門医・指導医、日本顎顔面補綴学会 認定医、日本補綴歯科学会 専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会 認定指導医、日本口腔外科学会 専門医・指導医、等の有資格者です。

■ 診療方針

患者さんが一つの診療室で総合的に処置を受けるため、大学病院のように処置ごとに診療科が変わる必要がなく、治療を計画的・効率的に進めることができるという利点があります。また、研修医の教育や、歯科衛生士、歯科技工士との多職種連携にも力を入れています。

■ 臨床実績

2020年1月～12月:抜歯の実績 2112例
普通抜歯 742例 難抜歯 281例 埋伏歯抜歯 1089例
(下顎難抜歯798例を含む)

■ 学会施設認定

- 日本歯周病学会 歯周病専門医研修施設
- 日本補綴歯科学会 専門医研修施設

障害者歯科

脳性麻痺等の身体障害、自閉スペクトラム症等の発達障害、知的障害、精神障害を伴う患者さんを対象に専門的歯科治療を行っています。とくに、自閉スペクトラム症の患者さんに歯科治療を受け入れてもらうための取り組みに力を入れています。また、当初必要な治療を行うだけでなく、継続的な口腔管理によって長期にわたり口腔の健康を維持していくことも重視しています。



科長 小島 寛



診察室

■ 得意分野

知的障害や自閉スペクトラム症のほか、脳性麻痺等の身体障害を伴う患者さんの歯科診療への導入から治療を行うにあたり、障害の特性に合わせた心理的対応や姿勢への配慮等を高い専門性をもって行っています。とくに心理的対応では、たとえ当初の歯科治療においては全身麻酔を必要としたケースであっても、その後歯科診療への拒絶をなくし、通常診療に移行できるよう取り組んでいます。身体抑制剤を用いることはほとんどありません。

■ 診療体制

日本障害者歯科学会認定医の資格を有しているか、それを目指している歯科医師が診療にあたります。また、歯科衛生士は障害者歯科診療の経験が豊富です。全身麻酔下歯科治療は週1例、静脈内鎮静法下歯科治療は週数例の予約枠を設けています。新患は随時受け付けていますが、電話で当科に直接予約をしていただければ待ち時間なく対応できます。

■ 診療方針

生涯にわたる口腔の健康管理を達成するためには、全身麻酔や静脈内鎮静法に頼らなくても通常の外来通院が可能になることが非常に重要です。そのためには、歯科診療への心理的拒絶をなくす必要があります。そこで、行動心理学の知見を応用した行動変容への取り組みにもっとも力を注いでいます。

■ 対象疾患

- 身体障害(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、脳性麻痺等)
- 知的障害(ダウン症候群ほか各種症候群・疾患を含む)
- 発達障害(自閉スペクトラム症等)
- 精神障害(統合失調症やパニック障害等)

■ 学会施設認定

- 日本障害者歯科学会

口腔放射線診断科

口腔放射線診断科は最新の診断機器を用いて、歯だけでなく、歯肉、顎骨、顎関節、舌、頬粘膜など口腔を1つの単位として総合的な検査と診断を行っています。撮影時には検査目的や方法などをお伝えし、検査の不安を取り除くように心がけています。また、画像診断は治療の入り口であるため、検査後の診断結果が正確かつ早急に依頼医に届くように、積極的に学会や勉強会に参加をして日々研鑽を積んでいます。



科長 香川 豊宏



診断風景

■ 得意分野

口腔領域に留まらず、頸部、副鼻腔など顎顔面部の疾患を診断しています。

■ 診療体制

口腔放射線診断科は一般的なエックス線撮影をはじめ、CT、MRI、超音波装置など、最新の医療機器を備えています。これらの機器を用いて顎顔面部の画像検査を行います。検査後はすべての検査に対して専門医の資格を持った歯科放射線科医が診断レポートを作成しています。また、他の病院から依頼された種々の検査や画像診断も行っています。現在、歯科放射線学会の専門医が3名常勤で勤務しております。

■ 診療方針

1つの疾患でも患者さんごとに部位や大きさ、性状は異なります。そのため、依頼された検査をそのままこなすのではなく、症状

や部位によって依頼医と相談しながら撮影方向や被曝線量を考慮し、さまざまなカスタマイズをしています。患者さんごとにオーダーメイド検査を行い、正確な診断を行うようにしています。

■ 対象疾患

歯原性嚢胞、歯原性腫瘍、骨折、系統疾患など

■ 主な検査

口内法、パノラマエックス線撮影法、頭部エックス線規格撮影、頭部一般撮影、歯科用コンビームCT、全身用CT、MRI、超音波検査

■ 学会施設認定

- NPO 法人日本歯科放射線学会

歯科麻酔科

手術や歯科治療のための全身麻酔や通常では困難な歯科治療のために精神鎮静法を用いた管理を行っています。さらに顎顔面領域の痛みや麻痺に対してペインクリニック診療を行っています。



科長 谷口 省吾



精神鎮静法

■ 得意分野

手術を受ける患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔法、麻酔管理法を行っています。歯科治療恐怖症や異常絞扼反射などで通常の歯科治療が困難な患者さんに対しては精神鎮静法を行っています。ペインクリニックでは神経ブロック、薬物治療、近赤外線照射やキセノン光照射による光線療法を行っています。

■ 診療体制

日本歯科麻酔学会指導医、日本歯科麻酔学会認定専門医・認定医を中心に安全な全身麻酔管理や精神鎮静法を行っています。精神鎮静法は火曜日、木曜日、金曜日に行っています。さらにペインクリニック診療も行っております。

■ 対象疾患

全身麻酔は口腔外科手術や局所麻酔だけでは治療が困難な

小児歯科や障害者歯科の患者さんの歯科治療が対象です。精神鎮静法は歯科治療恐怖症や異常絞扼反射、高血圧や心疾患を有するなど通常の歯科治療が困難な患者さんが対象です。ペインクリニックは三叉神経痛などの顎顔面領域の痛みや歯科治療後のしびれが対象です。

■ 主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行っています。手術室には最新の患者監視装置を備えており、安全な麻酔管理を行っています。必要な場合は侵襲的なモニタリングも可能です。精神鎮静法は主に静脈内鎮静法を行っています。ペインクリニックでは神経ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

■ 学会施設認定

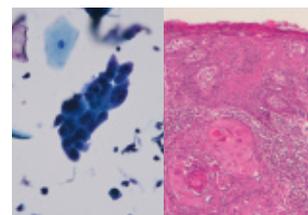
- 日本歯科麻酔学会指導施設

口腔病理診断科

口腔病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。



科長 橋本 修一



口腔癌(扁平上皮癌)の細胞診(左)と組織像(右)

■ 概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

■ 得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯源性腫瘍の診断病理に力を入れています。診療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重

視しています。また、近年になり口腔癌の侵襲の少ないスクリーニング検査として口腔細胞診が普及してきました。当院においても口腔癌の早期発見のために細胞診にも力を入れています。

■ 診療体制

スタッフ4名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。

日本病理学会専門医・指導医(1名)、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(2名)、日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医(1名)、日本呼吸器学会専門医(1名)、死体解剖資格認定医(3名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

■ 対象疾患

歯科口腔領域の疾患を対象に、歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。

歯科診療部門

医科診療部門

診療支援部門

中央診療施設

事務課

| 診療部門 | Clinical Division |

医科診療部門

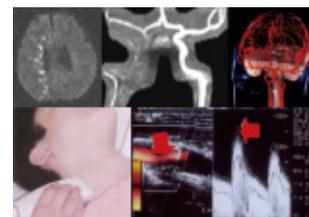
Medical Clinics

内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科

内科全般を診療していますが、特に脳血管障害、循環器疾患、糖尿病、腎疾患を専門としており、緊急入院にも対応しています。糖尿病については、周術期の合併症評価やコントロール目的の入院に加えて、教育入院も行っています。睡眠時無呼吸症候群の診断と治療は検査入院に対応しており、骨塩定量(DEXA法)による骨粗鬆症の診療や禁煙外来も行っています。また、耳鼻科と共同して嚥下障害の精密検査・治療を進めており、老人保健施設や指定介護老人福祉施設(特養)を関連施設として有することで、超高齢化社会に対応した連携医療に取り組んでいます。



科長 大星 博明



頭部MR・頸部血管エコーによる脳梗塞の検査

■得意分野

- 頭部MRIやCT、超音波検査などを迅速に行う体制が整っています。
- 糖尿病の治療・教育入院を行っています。
- 常勤の内科系学会認定の各種専門医が、それぞれの専門的診療にたずさわっています。
- 高齢者が有する複数の疾患に対して、包括的な診療を行っています。

■対象疾患

- 脳血管障害:脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など
- 循環器疾患:治療抵抗性高血圧、虚血性心疾患、急性および慢性心不全など
- 糖尿病:1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など
- 腎疾患:無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など

■主な検査

頭部MRI、頭部CT、頸部血管超音波検査、心臓超音波検査、ホルター心電図、トレッドミル検査、ポリソムノグラフィー、簡易睡眠時無呼吸検査、骨塩定量(DEXA法)

■専門外来

- 禁煙外来
- 睡眠時無呼吸外来

■学会施設認定

- 日本老年医学会
- 日本高血圧学会

■学会認定専門医

- 日本内科学会
- 日本脳卒中学会
- 日本循環器学会
- 日本糖尿病学会
- 日本腎臓病学会
- 日本透析学会
- 日本老年医学会

心療内科

心療内科は「こころ」の面から「からだ」の症状を診る内科です。内科医としての技術を基礎に、いろいろな「こころ」と「からだ」の悩みを持っている患者の方々のお話をお聴きして、心身両面からの治療を行っています。



科長 金光 芳郎



診療風景

■得意分野

心療内科では、内科的な疾患を中心に診療していますが、一般の内科と違うところは、身体をみながら常に患者さんの心や社会生活の面に注意を向けていることです。精神科と違うところは、心と同時に身体に配慮していることです。長引く症状があってもそれがストレスからくるものであるとか、心理的な原因であるということ、本人自身はなかなか気が付かないものです。症状が長く続く場合、検査でははっきりした異常が見られない場合、多彩な症状が繰り返し出る場合、などには一度心療内科に相談してください。当科においては、治療として、薬物療法に加えて、カウンセリング、自律訓練法、交流分析、認知行動療法、バイオフィードバック法などを行っています。

■診療体制

初診・再診は月・水・金・土曜の午前、月・火・水・木曜の午後で、いずれも完全予約制です。2名のスタッフが診療にあたっています。

■対象疾患

心療内科でみることの多い病気には、高血圧症、糖尿病、肥満などの生活習慣病、気管支喘息、胃十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、頭痛、自律神経失調症などがあります。これらの病気で、起こる原因やなかなか良くならない原因に、心理社会的要因やストレスが関係しているものを総称して「心身症」と呼ばれています。

■学会施設認定

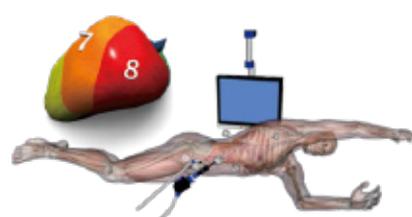
- 日本心身医学会研修診療施設

外科

消化管・肝胆膵・乳腺・肛門疾患の診療と手術を中心とした治療を行っております。特に消化管・肝胆膵疾患の手術は体に優しい内視鏡下手術を行っており短期間の入院で早期の社会復帰を可能としています。



科長 池田 哲夫



左半腹臥位での腹腔鏡下肝切除

■ 得意分野

胃・小腸・大腸の内視鏡下手術は吻合まで全て腹腔内で行う完全腹腔鏡下手術を行っております。そ径ヘルニアは腹膜を開くことなく、再発の可能性が限りなくゼロに近いTEP法(完全腹膜外修復法)を行っています。小さな肝腫瘍に対しては完全腹腔鏡下肝切除を行い、胆嚢摘出術にはより低侵襲な細径鉗子を用いて行っています。乳癌手術は「無用な切除、郭清」は行わない方針で当院では、ICG法による腋窩リンパ節生検を行い、術中迅速病理診断にて転移を認めなかった症例では腋窩リンパ節郭清を省略し、リンパ浮腫等の合併症の減少に努めています。痔疾患に対しては通常の手術に加えてモリコーンやジオン注射法(四段階注射法)を導入し痛みの少ない治療を目指しております。

■ 対象疾患

消化管疾患:食道癌、胃癌、大腸・直腸癌、小腸腫瘍
肝胆膵疾患:胆石症、胆のうポリープ、肝腫瘍、肝癌、膵癌、膵

嚢胞性腫瘍、胆道癌

ヘルニア:そ径ヘルニア、臍ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア

乳腺疾患:乳癌、乳腺炎症性疾患

肛門疾患:痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、痔ろう、脱肛

■ 学会資格

【学会専門医】

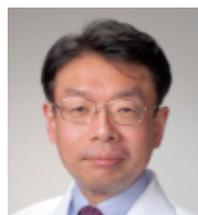
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝・胆・膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本乳癌学会乳腺専門医、マンモグラフィ読影医

【学会施設認定】

日本外科学会関連施設、日本消化器外科学会関連施設、日本大腸肛門病学会関連施設、外科周術期感染管理教育施設

形成外科・美容外科

形成外科では老化や外傷、治りの悪い傷により生じた異常、変形、不満足な状態をレーザー治療や手術、その他さまざまな方法で本来あるべき人体の“形”に整えることを主な目的としています。



科長 萩家 康弘



レーザー治療の様子

■ 得意分野

- 1) 老化にともなう変形に対する治療(抗加齢美容医療)
- 2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷の治療
- 3) 褥瘡や治りの悪い傷(難治性潰瘍)など創傷管理・治療
- 4) 美容医療

■ 診療体制

初再診とも月曜日から金曜日まで完全予約制で診療しています。

■ 診療方針

患者さんの生活の質を落とさないように最も適した治療について十分に時間をかけて説明を適切に行えるように完全予約制としています。美容医療の中には「わきが」や眼瞼下垂のように保険診療が適用されるものもあるのでご遠慮なく問い合わせください。

■ 主な治療

ボトックス注射、ヒアルロン酸・ハイドロキシアパタイト注射、内服療法、外用療法、レーザー治療、しわとり手術、眼瞼下垂・二重瞼手術、きずあとの癒痕形成術
皮膚悪性腫瘍・良性腫瘍に対する手術、局所皮弁・植皮術による再建手術
難治性皮膚潰瘍に対する陰圧閉鎖療法
わきが手術・陥入爪治療

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は、首から上の領域で、頭髪・脳・眼・頸椎などを除いた部位の疾患を担当しています。扱う疾患は、中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎などの炎症性の疾患から、鼻副鼻腔、咽喉頭、頸部などに発生する腫瘍、外傷、先天異常など種々の病気に対しても投薬や外科的治療で対応しています。



科長 山野 貴史



歯性上顎洞炎に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術

■ 得意分野

病院の特性上、歯科からの紹介の占める割合が他施設と比較して高く、摂食嚥下障害、音声構音障害、歯性上顎洞炎を含めた鼻副鼻腔疾患、耳下腺・顎下腺などの唾液腺疾患など、境界領域疾患の対応に力を入れています。

■ 診療体制

2021年10月より常勤3名体制(うち専門医2名)となっています。さらに当院の言語聴覚士は2名とも耳鼻咽喉科所属であり、診療科としては5名のチームとなります。

■ 診療方針

みみ、はな、のどすべての耳鼻咽喉科領域の疾患に対して、急性期の炎症疾患から慢性の疾患に対して診療にあたります。特に境界領域の疾患に対しては、他科と協力して治療を行うように心がけています。

■ 主な検査

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストボスコピー、純音聴力検査、語音聴力検査、補聴器フィッティング、平衡機能検査、頭頸部腫瘍に対するエコー、CT、MRI

■ 主な治療

摂食嚥下障害に対するリハビリテーションおよび嚥下機能改善手術などの外科的治療、歯性上顎洞炎や歯科インプラントトラブルに対する内視鏡下鼻副鼻腔手術、いびきに対する口蓋扁桃摘出および軟口蓋形成術、唾石に対する内視鏡下での摘出、耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍に対する神経モニター下での外科的治療

■ 学会施設認定

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

摂食嚥下・言語センター (ことばと飲み込みのケアセンター)

当センターは、当院の特徴である、医科と歯科の連携を活かし、さらにそれ以外の医療スタッフを含めての多職種連携でのチームで、ことばと飲み込みの治療をします。



センター長 山野 貴史



ベッドサイドでの嚥下内視鏡検査

■ 得意分野

摂食嚥下障害例に対して、全例に嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の評価で、治療方針を決定します。軽症例に対しては、外来通院での治療を積極的に取り組んでいます。近年有効性が報告されている、ダブルバルーンを使用したバルーン訓練や干渉波刺激装置も導入しています。リハビリテーションのみでは効果の乏しい重症例に関しては、嚥下機能改善手術など外科的治療にも対応しています。

■ 診療体制

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、外科的治療(耳鼻咽喉科医)、リハビリテーション(言語聴覚士)、口腔のケア(歯科医師、歯科衛生士)、食事介助(看護師)、食形態の指導(管理栄養士)などで対応しています。

■ 治療方針

病院の指針である口腔医学のもと、多職種連携での治療を心がけています。

■ 対象疾患

脳血管障害やパーキンソン病など変性疾患に伴う嚥下障害、頭頸部癌や食道癌術後の嚥下障害、声帯麻痺やポリープによる音声障害、小児の構音障害、高齢者の嚥下性肺炎

■ 主な検査

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストボスコピー

眼科

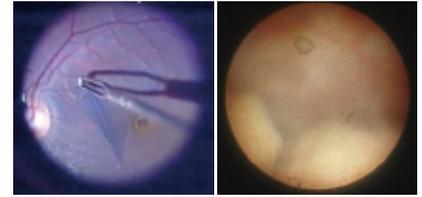
白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離などの眼疾患全般について、最新の検査・治療機器を用いて診断・治療を行っています。特に加齢黄斑変性については本年4月より最新の診断、治療が行える体制を整えました。また外眼部(まぶたや眼窩)に生じる腫瘍性・炎症性疾患、鼻涙管閉塞に伴う流涙症などについても対応しています。さらにぶどう膜炎などの眼科領域の炎症性疾患の診断と治療も行っています。

■得意分野

白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせて行っています。全身麻酔での手術や1週間程度の入院での両眼手術も可能です。緑内障手術や網膜硝子体手術(血管新生緑内障や増殖性硝子体網膜症など重症例を含む)は入院で行っています。新たに網膜硝子体疾患の診療に力を入れ、多数の検査機器を駆使したmultimodal imagingの手法を用いてより正確な診断、治療が行える体制を整えました。特に滲出型加齢黄斑変性をはじめとする抗血管新生療法などの網脈絡膜疾患の治療は、患者さんの背景を考慮し、より長期に視力維持ができるような個別化治療をめざしております。主な検査装置として、走査型超広角眼底撮影装置、HRA(レーザー走査型眼底撮影装置)、光干渉断層撮影装置(OCT)、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計などがあります。



科長 川野 庸一



左:BBGを用いた23G硝子体手術
右:涙道内視鏡で見られた結石

■対象疾患

- 白内障
- 緑内障の薬物療法および手術治療
- 糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、硝子体手術治療
- 加齢黄斑変性に対する診断と薬物療法。
- 黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する硝子体手術治療
- ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法
- 眼瞼下垂、内反症、眼部腫瘍性疾患に対する手術療法
- 流涙症に対する涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術など。

■学会施設認定

- 日本眼科学会

小児科・神経小児科

小児一般診療に加え、小児神経疾患を対象に専門診療を行っています。神経小児科では、けいれん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳、神経、筋に何らかの異常がある小児の診断、治療、指導を行っています。



科長 鳥巢 浩幸



小児科外来の待合

■得意分野

プライマリ・ケアを中心とした小児診療に加えて、小児神経疾患(てんかん、神経発達症など)の診療に力を入れています。

■診療体制

一般外来(平日午前):日本小児科学会専門医が担当します。
神経・発達外来(完全予約制):日本小児神経学会専門医が担当します。

■診療方針

1. 子どもと家族の権利を尊重し、十分な説明を行い納得いただける小児医療に取り組みます。
2. 子どもたちへの“思いやり”を基本に、安心・安全な医療を提供します。
3. 子どもたちの成長・発達に応じた質の高い医療をめざします。
4. 地域や院内他部門との緊密な連携をはかり、信頼が得られる小児医療に努めます。

■対象疾患

小児疾患一般、小児の発作性疾患(熱性けいれん、てんかんなど)、小児の発達関連疾患(知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症など)

■主な検査

神経放射線学的検査:CT、3T-MRI、脳波検査
心理検査:WISC-IV、田中ビネー知能検査V、Vineland-II
適応行動尺度、PARS-TRなど

■主な治療

通常診療に加え、臨床心理士による心理カウンセリングを実施しています。

■学会施設認定

- 日本小児神経学会専門医研修関連施設

整形外科

四肢体幹の運動器疾患、特に足部疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は基本的に入院にて行います。日帰り入院での手術も行っています。運動器リハビリテーションにも力を入れています。



科長 井上 敏生

外反母趾の矯正手術

■ 対象疾患

運動器疾患全般の診察・治療を行います。足部疾患では外反母趾などの足趾の変形と疼痛、捻挫や軟骨障害等のスポーツ障害、変形性足部関節症や成人扁平足などの変性疾患などがあります。また、骨折や靭帯損傷などの外傷性疾患、変形性関節症等の変性疾患等に対し、小児から高齢者まで、診断・治療を行います。

■ アピール・得意分野

整形外科全般ですが、特に足部疾患です。外反母趾では体操指導・装具作成および手術による治療を行います。足関節疾患では、関節鏡(内視鏡)による治療も行います。また靴による痛み等に関する相談も受け付けます。疾患によっては、リハビリテーションプログラムを提供いたします。小児整形疾患の診断・治療も行っていますのでご相談ください。

■ 以下の学会専門医・認定医がいます

- 日本専門医機構認定整形外科専門医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本リウマチ学会リウマチ専門医
- 日本リハビリテーション学会リハビリテーション科専門医
- 財団法人日本体育協会公認スポーツドクター

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、各診療科と協力して、疾病による障害や運動機能が低下した患者さんに対して、症状に応じたリハビリテーション診療を提供し、医療スタッフが一体となって機能回復や社会復帰をサポートしています。スタッフは、理学療法士3名、作業療法士1名で、それぞれ職能を活かし良質で安全なリハビリテーションを実践しています。施設基準は運動器I、脳血管疾患II、廃用症候群II、呼吸器II、がんの5種を取得し、入院・外来患者様へリハビリテーション医療を提供しています。



科長 井上 敏生

リハビリテーション室

■ 対象疾患

高齢者やがんのリハビリテーションが約60%を占めますが、術前・術後の急性期リハビリテーション、脳血管疾患、整形外来リハビリテーションなど幅広い領域の疾患に対して診療を行っています。

■ アピール

安全に配慮したリハビリテーションを通じて、患者さんが望む生活を目指す方針の下に、入院・外来患者とともに目標の確認およびその達成状況を多職種で協議しております。リハビリテーションは徒手で治療を行いますが、電気や超音波、ホットパックなどの物療機器も使用します。

また以下の資格を有するセラピストが在籍しております。

- 日本理学療法士協会 運動器認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 介護予防認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 フレイル対策推進マネジャー
- 日本理学療法士協会 介護予防推進リーダー
- 日本理学療法士協会 地域包括ケア会議推進リーダー
- 福祉住環境コーディネーター2級
- 認知症ケア指導管理士(初級)

皮膚科

皮膚疾患全般に対応します。皮膚腫瘍の生検と病理診断、画像診断、外科的治療を行っています。歯科と連携し、歯科金属アレルギーや口腔アレルギー症候群、天疱瘡や類天疱瘡の精査・治療を行っています。大学病院や地域医療支援病院と連携して最新・最良の診断と治療に努めています。



科長 古村 南夫



Qスイッチヤグレーザー治療

■ 得意分野

歯科金属アレルギーのパッチテスト検査(要電話予約)が可能です。口腔アレルギー症候群・ラテックスフルーツ症候群や、蕁麻疹・アナフィラキシーの診断と精査を福岡病院アレルギーセンターと連携して行っています。

難治性口内炎をきたす自己免疫性水疱症(天疱瘡、粘膜類天疱瘡)の自己抗体検査や蛍光抗体法、久留米大学皮膚科と連携した詳細な血清免疫学的検査も可能です。

■ 対象疾患

皮膚がんやヘルペス感染症(顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症)、蜂窩織炎、重症薬疹の入院治療を行っています。乾癬のアプレミラスト内服、アトピー性皮膚炎のデュピルマブ注射やバリシチニブ内服の治療が可能です。美容皮膚科・皮膚レーザー治療では、Qスイッチヤグレーザー

治療とレーザートーニング、ケミカルピーリングを行っています。男性型脱毛症(AGA)のデュタステリド・フィナステリド処方、陥入爪のフェノール法手術や巻き爪のワイヤー矯正が可能です。

■ 学会専門医・認定医

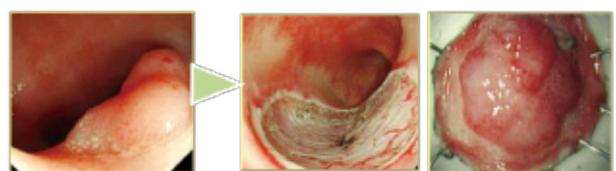
日本皮膚科学会認定:皮膚科専門医1名、レーザー・美容皮膚科指導専門医1名

内視鏡センター

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡と胆道内視鏡検査および治療を行っています。



センター長 池田 哲夫



大腸のESD(粘膜下層切開剥離術)症例

■ 内視鏡室・装備器具

検査室3室に待合室とトイレ完備の準備室(個室)5室、リカバリールームを用意しています。

内視鏡システム:CV-290、ELUXEO 7000システム、スパイグラスDS 胆管・膵管鏡システム、CV260

上部消化管内視鏡:GIF-H290Z、RG-760Z、ダブルバルーン内視鏡 EI-580BT

下部消化管内視鏡:CF-HQ290ZI、PCF-PQ260I、EC-L760ZP-VM

膵・胆道内視鏡:JF-260V、コンベックス走査超音波内視鏡 EG-580UT、SpyScope™ DS II

■ 得意分野

早期食道癌・早期胃癌に対しては拡大NBI、超音波内視鏡により適応と判断された病巣に対してはESDを施行しております。大腸内視鏡が受け辛い原因である前処置の煩雑さ、時間

がかかる、痛い、を和らげる目的で食物繊維とヨーグルトによる前処置、自宅での下剤内服、水浸法を導入しました。発見されたポリープはできる限り同時にコールドポリペクトミー、EMRを行っております。大腸腫瘍に対しても適応と判断した病巣にはESDを行います。より安全なハイブリッドESDを第一に選択して行っております。胆道系の内視鏡はコンベックス走査超音波内視鏡、ERCP診断だけでなく胆道結石の採石治療および狭窄に対してチューブステント、メタリックステントの留置を行っております。肝内結石に対しては最新のスパイグラスDS 胆管・膵管鏡システム(SpyScope™ DS II)で観察下にEHL(電気水圧衝撃波胆管結石破碎)を駆使した採石を行っております。また、消化管再建後の症例にはダブルバルーン内視鏡を用いた診断と治療を行っております。

■ 学会資格

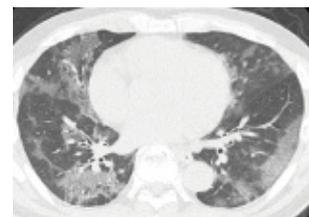
【学会専門医】日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

放射線診断科

令和3年4月より、当院の新たな診療科へ加わりました。従来からの口腔画像診断に加えて、全身を対象とした医科領域の画像診断も本格的な常勤体制となります。現在、新病院には最先端の画像診断機器が設置されており、院内はもとより、病診連携を通じて、院外の医療施設様にもご利用いただけるよう祈念しております。迅速な検査、報告書作成を心がけます。



科長 川波 哲



コロナウイルス肺炎の典型例

■ 得意分野

一般放射線診断、胸部放射線診断、消化管放射線診断、骨軟部放射線診断

■ 診療体制

教室が充足したばかりなため、常勤1名(専門医/指導医)、非常勤2名のコンパクトな体制です。来年度以降は人員や施設などをさらに充実させて参ります。

■ 診療方針

口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の理念を医療・介護の現場で実践し、当院の放射線診断科が皆様から認知され、信頼されるように努力いたします。

■ 主な検査

3テスラMRI、歯科用コーンビームCT、256列全身用CT、DXA(骨塩定量解析)、マンモグラフィ、超音波検査、単純X線検査、透視検査

■ 学会専門医・指導医

放射線診断専門医
放射線科指導医

麻酔科 (ペインクリニック)

手術や歯科治療のための全身麻酔および全身の痛みや麻痺の治療を行うペインクリニック診療を行っています。



科長 谷口 省吾



星状神経節ブロック

■ 得意分野

手術に対して不安を抱く患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔法、麻酔管理法を行います。ペインクリニックでは薬物治療だけでなく各種の神経ブロックも行っています。注射に対して恐怖心を感じる患者さんには、近赤外線照射装置やキセノン光照射装置を使用した理学療法も行っています。

■ 診療体制

日本麻酔科学会麻酔科認定指導医・麻酔科専門医を中心に安全な全身麻酔管理を行っています。ペインクリニックは医師の人数が限られるため予約制です。

■ 対象疾患

全身麻酔は、外科、耳鼻咽喉科、整形外科、形成外科、眼科の手術に対して行っています。歯科と合わせて年間600件あ

まり行われています。ペインクリニックの対象疾患は三叉神経痛、頭痛、带状疱疹、带状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などです。

■ 主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行い、必要に応じて術後の鎮痛も含めて硬膜外麻酔を併用しています。手術室には最新の患者監視装置を備えており、安全な麻酔管理を行っています。必要な場合は侵襲的なモニタリングも可能です。下半身の手術では脊椎麻酔と鎮静法を併用しています。ペインクリニックでは神経ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

■ 学会資格

- 日本麻酔科学会麻酔科認定指導医
- 日本麻酔科学会麻酔科専門医

病理診断科

病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を提供していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。



科長 橋本 修一



顕微鏡画像と連動したオンライン診断システム

■ 概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

■ 得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯原性腫瘍の診断病理に力を入れています。また、診

療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重視しています。また、今後は外部医療機関との連携でオンライン診断システムの拡充にも努めていく予定です。

■ 診療体制

スタッフ4名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。

日本病理学会専門医・指導医(1名)、日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(2名)、日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医(1名)、日本呼吸器学会専門医(1名)、死体解剖資格認定医(3名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

■ 対象疾患

医科・歯科領域のすべての疾患を対象に、医科・歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。

| 支援部門 | Medical support Division |

診療支援部門

Medical Support Division

看護部

看護部は、唯一の病棟で医科7科、歯科4科の診療科の入院患者に対応しています。平均在院日数7日と日々の入退院患者も多く、手術・検査等で小児から高齢者、認知症患者と幅広い患者さんを対象にして、医療チームの一員として安全で質の高い看護の提供を目指しています。



看護部長 松尾 佳代



重症個室

■ 運営体制

診療支援部門副院長のもと、看護師長2名、看護師主任3名、スタッフ47名の合計53名です。病棟、外来、手術室・内視鏡センターの3部署に分かれており、病棟が50床1単位、医科・歯科の術後や施設からの高齢患者に対して10対1の看護を提供しています。外来は病院1階に内科、外科、整形外科、2階に眼科、耳鼻科、皮膚科、形成外科、心療内科、小児科、口腔外科を有し、ローテーションで看護を行っています。手術室・内視鏡センターでは、医科・歯科の手術や内視鏡の検査・処置を担当しています。

■ 運営方針

看護部の理念、「やさしさと豊かな人間性で、患者さんと心かよいあう看護を提供します」

基本方針、

1. 安全な医療を確保し、信頼される看護を提供します
2. 看護の質の向上のために、自己研鑽に努めます
3. 患者さんが安心して療養できるように、快適な環境を整えます
4. 医療チームの一員としての役割を果たし、地域医療との連携を深めます

2021年度看護部は、①人材育成と自己研鑽の推進、②各部署の特性を活かした、病院経営への積極的参画という目標を掲げて、常に向上心を持って活動しています。

看護部の新たな教育体制

2021年4月より新たに教育担当看護師長が着任しました。看護部では、病院理念、看護部理念に則って、看護部の教育理念・方針に基づいた教育を行っています。2021年は20数年振りに、併設する福岡看護大学第1期生を含む新人看護師を迎え、特に新人看護師の育成に力を入れています。



教育担当看護師長
伊藤 明美



心肺蘇生の研修の様子

■ 教育理念

病院および看護部の理念を基盤として、信頼される質の高い看護が提供できる看護師を育成します。

■ 教育方針

1. 看護実践力および果たす役割を段階的に修得し、的確に判断し行動できる看護師を育成します。
2. 看護の質の向上のために、主体的に自己研鑽に取り組む自立した看護師を育成します。

■ 新人看護師教育プログラム

4月週1回、5.6月は月2回、7月以降は月1回の集合研修プログラムを実施し、基本的看護技術(14分野112項目)、看護師に必要な基本姿勢と態度(4分野23項目)、看護実践における管理(6分野35項目)といった看護実践能力の獲得を目指しています。

■ 新人看護師支援体制

(プリセプターシップ+チーム支援型)

部署のスタッフ全員で新人教育に携わり、集合研修(OFF-JT)と日常業務の中でのトレーニング(OJT)を連動させて、確実な看護実践能力を獲得できる体制をとっています。またプリセプターシップ制度で、新人看護師を一人の先輩看護師が相談役としてサポートしています。

■ eラーニングの活用

集合研修の事前課題、講義や手順書の確認にeラーニングを活用しています。個人IDでスマートフォンやPCでいつでも視聴可能で、自主的に自己学習に取り組むことができる環境を整備しています。

歯科衛生士部

歯科衛生士部はやさしさと豊かな人間性を持ち、思いやりのある対応で患者の皆さまに接し、医療チームの一員として歯科衛生士業務を提供します。



歯科衛生士長
手嶋 直美



部署別研修

■ 運営体制

歯科衛生士部31名は、10の診療科と中央手術室に配属し、歯科医師をはじめ多職種と連携し、診療や手術がスムーズに行えるように努めています。

■ 運営方針

1. 温かく思いやりを持った対応で患者の皆さまに接し、医療倫理の向上をめざします。
2. 歯学の高度医療に相応しい知識、技術、態度をもって歯科衛生士業務に遂行します。
3. 医療チームの一員として役割を果たし、地域医療との連携に努めます。
4. 歯科衛生士養成機関として臨床実習の質を高め、有能な歯科衛生士の育成に努めます。

■ 特色

- 1) さまざまな診療科において歯科診療補助・予防歯科・保健指導等の業務を行いながら、乳幼児から高齢者まで生涯にわたってお口の機能の維持、向上を目的に口腔機能管理に取り組んでいます。
- 2) 2020年における歯科衛生士専門業務件数は10,159件、福岡医療短期大学歯科衛生学科の実習受け入れ延べ人数は8,749名、同短大および地域施設への講師派遣15件、また各学会認定歯科衛生士9名は、歯科医師の協力のもと部署別研修を行い、歯科衛生士部の資質向上を目的に努めています。

■ 教育

クリニカルラダーを基礎にした教育プログラムを実施し、1年目から3年目、4年目以上と段階に応じて修得後、評価に伴い自己の見直し、研鑽を行っています。

薬剤部(薬局)

薬局は院内のすべてのお薬にかかわっている部署です。外来患者さんや入院患者さんへお薬の説明を行うほか、チーム医療の一員として、安全で安心な薬物療法が行えるよう活動しています。



薬局長 外尾 典子



調剤室

■ 運営体制

院外処方せん発行率が98.8%のため、病棟での活動が中心です。

病棟では専任薬剤師を配置し、入院患者さんへの安全な薬物療法に貢献しています。

中央業務では医薬品情報の収集・提供をはじめ、院内での医薬品の管理、調剤、調製に関わり、病棟薬剤師と相互に協働体制をとっています。

■ 運用方針

薬剤に関わる医療過誤の防止に努め、有効で安全な薬物療法に貢献します。

■ 業務内容

内服や外用薬の調剤業務、患者別施用単位別の注射調剤業務、医薬品情報の収集・提供、入院患者さんへの薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務、抗がん剤調製やTPN調製、医薬品管理業務、院内特殊製剤の調製、チーム医療への参画等

■ 特色

処方医への疑義照会を通して、薬物療法の有効性や安全性の向上に関わる薬剤関連業務を行っています。また、各診療科のカンファレンスや回診への参加をはじめ、感染制御チーム(ICT)、感染制御チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、緩和ケア等のチーム医療へ積極的にかかわっています。

滅菌・器材部

滅菌・器材部では、部署の一次洗浄を廃止、洗浄・組み立て・包装・滅菌を一元的に行っています。



部長 中畑 高子



組み立て室

■ 運営体制

管理者1名、他、外注職員で業務を行っています。

■ 運営方針

安心・安全に使用できる歯科器材・医療器材を提供するため、洗浄・滅菌の質の保証、向上を目指します。

■ 業務内容

歯科外来・医科外来・病棟・手術室・内視鏡室で使用した歯科器材、医療器材は、一次洗浄をすべて行わず回収し、洗浄・組み立て・包装・滅菌後、供給する業務を行っています。器材は、洗浄装置4台、超音波洗浄装置2台で洗浄を行い、清浄度を定期的に確認しています。洗浄後は、高圧蒸気滅菌装置3台、過酸化水素ガスプラズ

マ滅菌装置1台を用い、器材に応じた滅菌を行い、物理学的方法、化学的方法、生物学的方法の3つで検証を行い、滅菌を保証しています。(酸化エチレンガス滅菌は外注)

■ 特徴

1日2回、多品種、多量の歯科器材を回収しています。外注業者と調整しながら、歯科器材に応じて、洗浄、ハンドピースの油注、組み立て、バーセット等の器材の補充、滅菌を行っています。

滅菌を要しない歯科器材は、洗浄機による熱水消毒を行い、現場に供給しています。

院内感染防止並びに医療安全のため、また、現場の業務の効率化に貢献できるよう努力しています。

| 支援部門 | Medical support Division |

中央診療施設

Centers for Medical Diagnosis and Therapy

臨床検査室

医科歯科総合病院として医科系および歯科系の診療に必要な臨床検査を、正確かつ迅速に行うことをモットーに、多くの検査を当日検査室内で行っています。時間外の緊急手術や診療にも対応し、良質な医療の提供に貢献することを目標としています。特に細菌検査に関しては、院内で培養・同定・感受性検査を行う体制を整え、迅速な感染症対策に寄与しています。2020年9月の新病院建替に伴ってCBCや生化学検査、免疫検査の機器も更新し、より多くの検査項目を速やかにon-lineの院内情報システムで確認できる体制を整えています。



室長 大星 博明



自動分析装置

■ 業務内容

- 検体検査
 - 一般臨床検査、血液・凝固検査、生化学検査、免疫学検査、微生物学検査、病理組織学検査・細胞診
- 生理検査
 - 心臓機能検査、頸部血管・下肢静脈超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査など
- 輸血検査
 - 血液型判定、不規則性抗体スクリーニング、クロスマッチ

■ 設備

多項目自動血球分析装置、臨床化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動グルコース測定装置、自動グリコヘモグロビン分析装置、半自動卓上型尿分析装置、全自動遺伝子解析装置、検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システム等

■ 特色

トレッドミル心臓負荷検査、ホルター心電図を予約制で行っています。
睡眠時無呼吸症候群確定診断のためのポリソムノグラフィーを1泊入院で行っています。

■ 外部精度管理

- 福岡県医師会臨床検査精度管理調査参加
- 日本臨床検査技師会精度管理調査参加

栄養管理室

栄養管理室では『患者の皆さんに安全で質の高いおいしい食事を提供し、栄養面により治療に貢献します』の理念の基、きめ細かい栄養管理と愛情を込めた食事作りを行っています。



室長 中畑 高子



■ 栄養管理

管理栄養士が、入院患者さん一人一人の栄養状態を把握して、個人の状態に合わせた栄養と食事のサポートを実施しています。

■ チーム医療

多職種で連携して入院患者さんのQOLの向上に努めています。

- (NST)
 - 低栄養や食事摂取不良の患者さんなど、対象者の栄養サポートを多職種で行う
- (褥瘡委員会)
 - 月1回の委員会に参加し、栄養面よりサポートする
- (摂食・嚥下)
 - VF検査の検査食作成、食事形態調整のサポートをする

● (カンファレンス)

外科、口腔外科、医科歯科合同 などに参加し、多職種間での情報交換を行い、栄養管理を行う

■ 病院食

- (一般食) 常食、軟菜食、キザミ食、ミキサー食、幼児食、減塩食、便秘食、フィット食、嚥下調整食 等
- (特別食) 糖尿病食、腎臓病食、心臓病食、脂質異常症食、膵臓病食、潰瘍食、消化管術後食、低残渣食 等
- (流動食) 普通流動食、濃厚流動食、経管流動食

■ 栄養指導 (外来・入院：予約制)

食事療法を必要とする患者さんに、主治医の指示の基、個々の病状に応じた栄養指導を行っています。

- 月曜日～金曜日 9:30～11:00 14:00～16:00
- 土曜日(要相談) 9:30～11:00 (祝・祭日は除きます)

予防接種センター

予防接種センターは、福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された予防接種に関するさまざまな事業を行っています。アレルギーや前回のワクチン接種で副反応が出て、かかりつけの先生がワクチン接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種を行っています。また、県民の皆様へ予防接種に関する正しい知識や情報の提供、医療従事者向けの予防接種に関するさまざまな研修など地域の予防接種の支援機関としての役割を担っています。

■得意分野

- アレルギーなど基礎疾患をお持ちの方や前回の接種で副反応が出て、かかりつけ医療機関での接種を心配されている方への予防接種
- 留学や海外赴任などに際しての渡航ワクチン外来

■診療体制

予防接種外来(完全予約制):日本小児科学会指導医・専門医/日本感染症学会指導医・認定医が担当します。

■診療方針

- (1) 福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された次の事業を行います。
 - ① 予診を尽くし、十分な説明を行うワクチン接種
 - ② 県民・市民への予防接種に関する正しい知識や情報の提供
 - ③ 医療相談事業
 - ④ 医療従事者向け研修
- (2) 地域の自治体・医療機関と緊密な連携をはかり、信頼



センター長 岡田 賢司



当院予防接種センターでの医療従事者への接種

が得られる予防接種に努めます。

- (3) 海外渡航・留学などに対応した渡航予防接種外来を行います。
- (4) 予防接種後の副反応や接種間違い等に対する対応や支援を行います。

■対象疾患

- かかりつけの医療機関での接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種
- 海外渡航/留学に対応した予防接種

■主な検査

アレルギー反応予知のための皮内テストや好塩基球刺激試験

■主な治療

- ストレス関連反応を予防するためのワクチン接種前、中、後での心理的および社会的不安の解消
- 注射時の痛みの軽減

■学会施設認定

- 日本ワクチン学会理事施設

健診センター

健診センターでは「お口の健康から全身の健康」をめざした予防医学に取り組んでいます。法定健診、定期健診、健保健診、生活習慣病予防健診、特定健康診査など一般的な健康診断だけでなく、口腔健診に力を入れています。口腔の健康は生活習慣病や認知症・フレールの予防に繋がり口腔の健康を推進することによって全身の健康も維持できます。



センター長 樗木 晶子



健診センター

■概要

一般的な法定健診の場合、受診券などが揃っていれば、当日お受けできることもありますが、まずは、健診センターへの予約から始まります。口腔健診、脳ドック、胃がん検診、乳がん検診、骨塩定量、睡眠時無呼吸検査などは予約が必要です。健診センターでの医師の問診の後、各検査室で検査を受けます。当院オリジナル健診であれば、結果を口頭でご説明し、書面で後日、正式報告となります。福岡市の保健事業の場合には、福岡市からの結果報告に2週間ほど時間を要します。異常があれば精密検査の案内や保健指導も行っています。

■得意分野と診査体制

健診センターの医師は循環器専門医(常勤1人、非常勤2人)が対応しますので、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などから由来する生活習慣病予防は得意分野です。

また、口腔健診では、パノラマX線撮影も行う「う歯・歯周病」検査のみならず「口腔粘膜、唾液分泌量や潜血、顎関節検査」も含み、口腔内病変やオーラルフレイルの早期発見ができます。口臭検査等のオプション検査も用意しています。

口腔健診では総合歯科、保存・歯周病科、補綴科、インプラント科の全面的協力のもとに施工し、一般健診においては、総合医学、内視鏡センター、眼科、耳鼻科などの各診療科や放射線部、検査部、看護部、事務部の協力のもとに行っております。

地域の高等学校や幼稚園などの歯科検診もたずさわっており、質の高い学校歯科検診を目指し、研究にも繋いでいます。今後も地域に根ざした健診を広めてゆきます。

歯科診療部門

—

内科診療部門

—

診療支援部門

—

中央診療施設

—

事務課

| 支援部門 | Medical support Division |

事務課

Administration Division

事務課

病院事務課では、患者さんの受診に関する業務、医薬品などの購入、経理に関すること、建物の維持管理に関することなど、さまざまな事務処理を行っています。



課長 横大路 智視



病院事務課

■ 管理係

健全な病院運営を行うための予算管理、医薬品・医療材料・医療機器等の購入等に関する業務、病院施設の管理および衛生に関する業務のほか、歯科医師の臨床研修に関する業務を行っています。

■ 医事係

患者さんへの受診案内や入退院手続き、診療費等の算定、請求および収納に関する患者サービスに関する業務や保険請求に係る施設基準の届出、医事情報の統計に関する業務を行っています。

■ 医療情報係

病院情報システムの維持・管理、運用に関する業務、診療記録の開示に関する業務、データウェアハウス活用等のガイダンス、診療データの集計および分析に関する業務を行っています。

■ 病診連携係

患者さんの入退院支援に関すること、入院中の療養支援に関すること、社会復帰支援に関することなど、患者さんやご家族から、さまざまなお話をうかがい、不安や疑問を解決するためのお手伝いを行っています。お気軽にお声かけください。

■ 健診センター係

健診センターに係る受診者の受付、案内や受診者情報および診療記録等の保護、管理、統計に関することなど、健診センターの管理運営に係る事務処理全般の業務を行っています。



10. 医療機関の承認・指定状況

Legal Authorization of Medical Institution Designations and Accreditation of Academic Society

1. 医療機関の開設等

区分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年 2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成20年 5月19日 (平成30年5月11日 2回目更新)
福岡県予防接種センター 指定	平成28年 4月1日

2. 学会認定

[認定施設名]

- 日本外科学会
- 日本消化器外科学会
- 日本食道学会
- 日本眼科学会
- 日本心身医学会
- 日本老年医学会
- 日本高血圧学会
- 日本歯科保存学会
- 日本歯周病学会
- 日本口腔インプラント学会
- 日本顎顔面インプラント学会
- 日本総合歯科学会
- 日本口腔衛生学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本顎関節学会
- 日本口腔顔面痛学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本障害者歯科学会
- 日本矯正歯科学会
- 日本小児歯科学会
- 日本歯科放射線学会
- 日本歯科麻酔学会
- 日本口腔外科学会
- 日本がん治療認定医機構
- 日本有病者歯科医療学会

11. フロアマップ

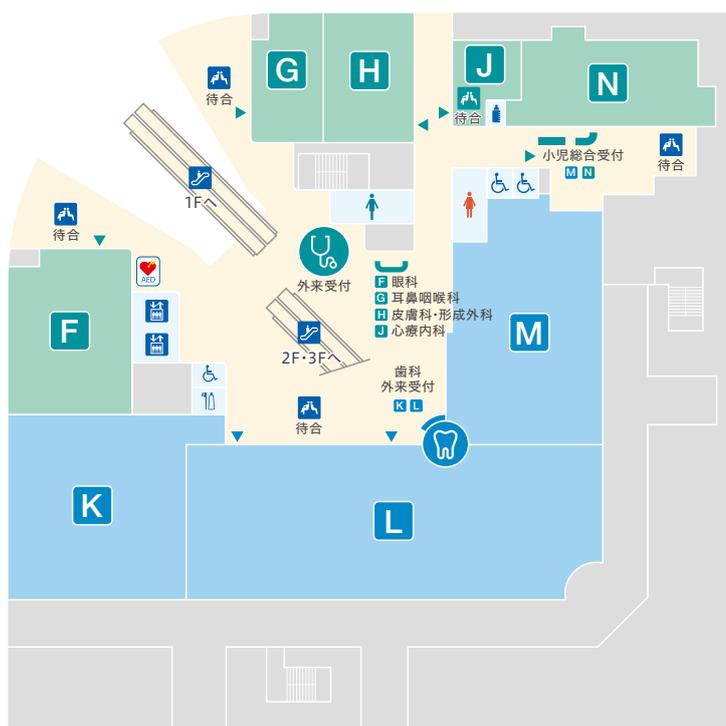
Floor Maps

1F



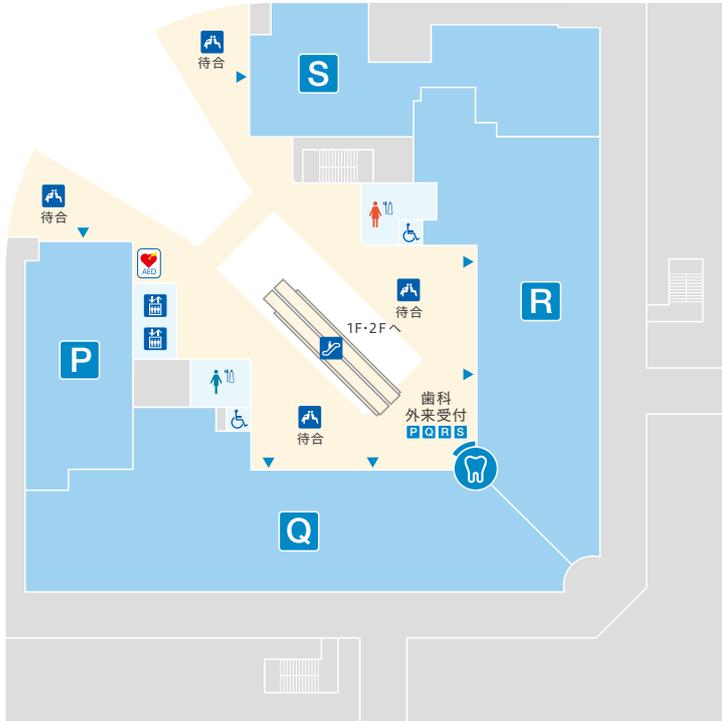
- i** 総合受付
- 1** 初診・紹介
- 2** 再診
- 3** 入院・面会
- 4** 会計
- 5** 自動計算機
- 6** 再来受付機
- 7** **A B C** 相談室
- 8** 薬局
- 9** 時間外受付
- A** 内科・外科・整形外科
- B** 障害者歯科
スペシャルニーズ歯科
- C** 健診センター
- D** 放射線診断科
放射線検査
- E** 生理検査

2F



- F** 眼科
- G** 耳鼻咽喉科
摂食嚥下・言語センター
(ことばと飲み込みのケアセンター)
- H** 皮膚科
形成外科
- J** 心療内科
- K** 矯正歯科
- L** 口腔外科
スポーツ歯科
顎変形症センター
- M** 小児歯科
小児口腔外傷センター
- N** 小児科
予防接種センター

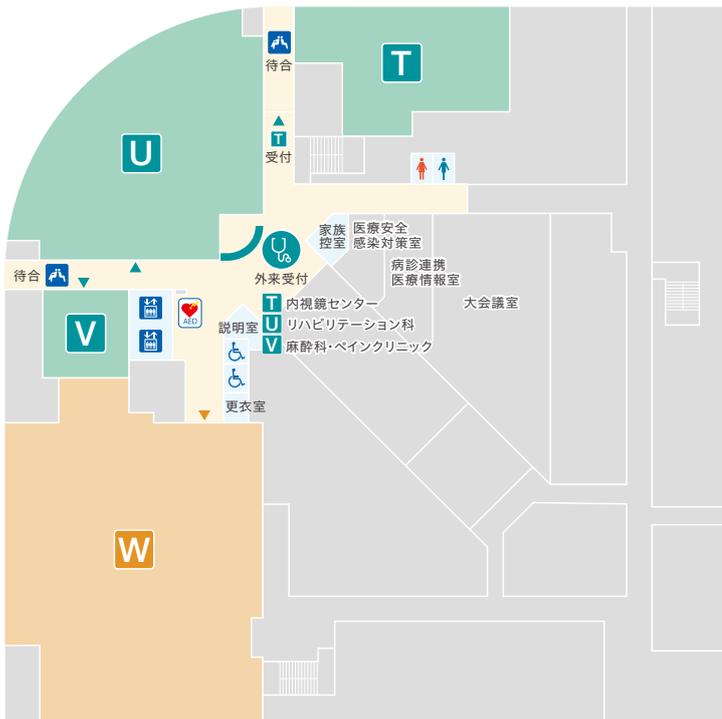
3F



P Q R S

- 高齢者歯科
- 歯科初診
- 総合歯科
- 訪問歯科センター
- 口臭クリニック
- 歯周病科
- 保存科
- 歯内治療
- 補綴科
- クラウン・ブリッジ・義歯
- 美容医療センター
- 口腔インプラント科

4F



- T** 内視鏡センター
- U** リハビリテーション科
- V** 麻酔科・ペインクリニック
- W** 手術室

5F

病室 501~528



診療科のご案内

5階 ■ 病棟

4階 ■ 内視鏡センター ■ 麻酔科・ペインクリニック
■ リハビリテーション科 ■ 手術室

3階 ■ 歯科初診 ■ 補綴(入れ歯)科
■ 総合歯科・高齢者歯科 ■ 口腔インプラント科
■ 訪問歯科センター ■ 健診センター(口腔健診)
■ 保存(むし歯)・歯周病科

2階 ■ 眼科、耳鼻咽喉科、 ■ 矯正歯科、口腔外科
皮膚科・形成外科、心療内科 ■ 小児歯科、小児科

1階 ■ 総合受付 ■ 健診センター
■ 内科・外科・整形外科 ■ 放射線診断科、検査室
■ 障害者歯科、(スペシャルニーズ歯科)

エスカレーターで2階、3階へ (4階、5階(病棟)はエレベーターをお使いください)

病院外観



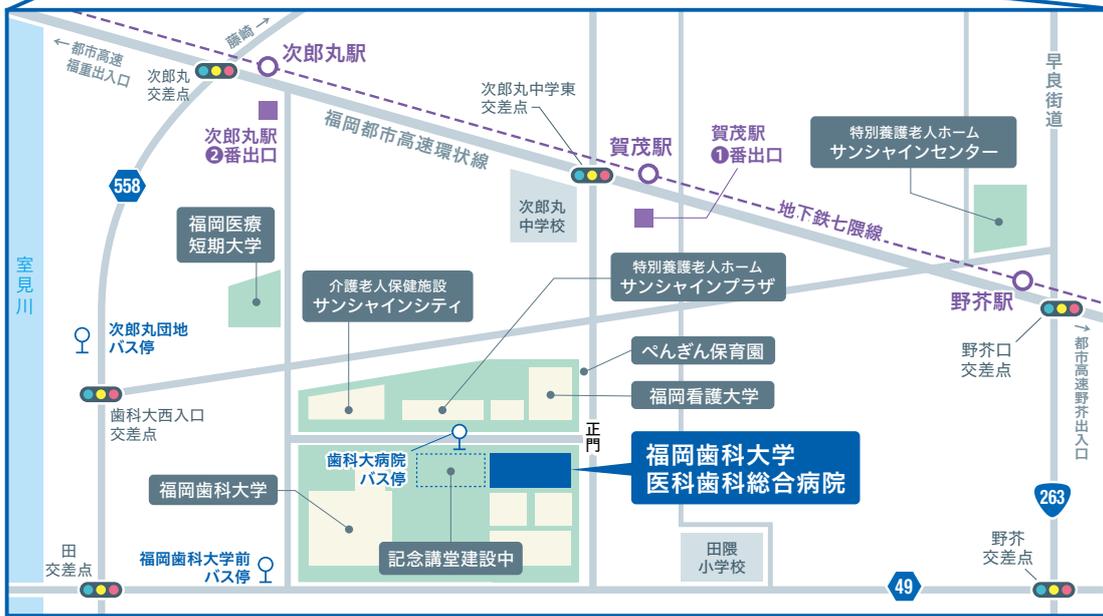
シンボルマーク



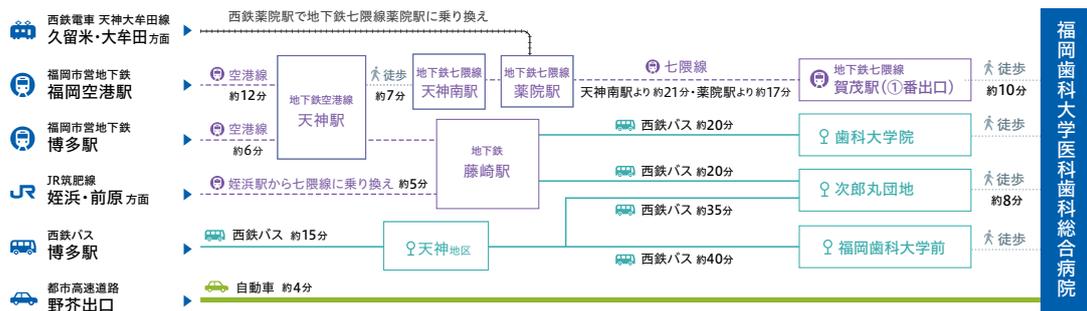
「つなぐ」

患者の皆様とともに病院と地域をつなぐ

アクセスマップ



■病院までのアクセス



福岡歯科大学 医科歯科総合病院

一般財団法人 日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1

TEL:(092)801-0411 FAX:(092)801-0459

E-mail:byouin@college.fdcnet.ac.jp WEB:<https://www.fdcnet.ac.jp/hos/>



Fukuoka Dental College General Hospital for Medicine and Dentistry